

所得稅法外十六法律中改正法律案特別委員會議事速記録第三號

付託議案

○所得稅法外十六法律中改正法律案
○地方稅法及地方分與稅法中改正法律案

昭和二十年二月三日(土曜日)午前十一時十四分開會

○委員長(伯露林博太郎君) 開會ヲ致シマス、此ノ前御發言ガアリマシタ通リ、今日ハ條項ノコトニ付キマシテ當局ノ御説明ヲ煩シタイト存ジマス

○政府委員(田中豐君) ソレデハ所得稅法外十六法律中改正法律案ノ各條項ニ付キマシテ御説明申上ゲマス、御説明ノ便宜上、御配付致シマシタ新舊對照表ニ付キマシテ申上ゲタイト思ヒマス、此ノ改正ハ可ナリ廣汎ニ互ツテ居リマスシ、又申ニハ改正ニ伴フ條文ノ整理ト云フヤウナ事項モ、技術的ニ屬スル部分モ相當多クゴザイマスノデ、サウ云フ事項デアルトカ、又稅率ノ引上等、讀ンデ御了解願ヘルヤウナ點ハ説明ヲ省略致シマシテ、比較的重要ナ事項ニ付キマシテ、簡單ニ御説明申上ゲタイト思ヒマス、先ヅ第一ハ、所得稅法デアリマスガ、所得稅法ノ第八條、是ハ所謂看做配當ノ課稅ヲ改正スルコトニ關スルモノデアリマス、看做配當ト申シマシテモ、實ハ三ツ種類ガアツタノデアリマスルガ、舊稅法ヲ御覽下サイマス、左ノ金額ハ之ヲ法人ヨリ受クル利益ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ト看做シ本法ヲ適用ス、之ニ第一號第二號第三號トアリマシテ、一號ハ、株式ノ消却ニ因リ支拂ヲ受クル

金額又ハ退社、脫退若シクハ出資ノ減少等ノ場合ニ於キマシテ、實ツタ金額ガ拂込金額又ハ出資金額ヲ超過スレバ、其ノ超過額ヲ配當ト看做シテ課稅スルト云フ規定デアリマス、二ハ、法人解散ノ場合デ、同ジヤウナ規定、三ハ合併シテ法人ガ消滅シマシタ場合ニ、其ノ消滅シタ法人ノ株主、社員等ガ受クル金額等ニ付テ、同ジヤウナ規定デアツタノデアリマス、今回ノ改正ハ、此ノ二ト三、即チ法人ノ解散ト合併ノ場合ニ於キマシテ、株主ガ實ツタ金、若シクハ新シイ株式、是等ガ拂込金額ヲ超過致シテ居リマス場合ハ、從來ハ、配當ト看做シテ、所得稅ノ課稅ヲ個人ニ致シテ居ツタ譯デアリマスガ、此ノ二號三號ヲ今回廢止致シマシテ、法人ノ清算所得トシテ課稅スルト云フコトニ改メヨウトスルノデアリマス、唯一號ノ方ハ、株式ノ消却ニ因リ支拂ヲ受クル金額或ハ退社、脫退若シクハ出資ノ減少等ニ因ツテ拂戻ヲ受クル金額、是ハ矢張り現行通り配當ト看做シマシテ、所得稅ノ課稅ヲ存續スル、斯ウ云フコトニ相成ツテ居リマス、此ノ關係ハ、十一頁ヲ御覽願ヒマス、十一頁ノ新シイ法律ノ方ノ上段ノ五號デアリマスガ、此ノ一號ノ分ハ、所得稅法ニ依ツテ矢張り看做配當トシテ存續致シマスガ、此ノ五號ニ但書ヲ加ヘマシテ、十分ノ五ニ相當スル金額、ソレヨリ千五百圓ヲ控除シテ課稅スルト云フコトニ致シマシテ、從來通り所得稅法ノ課稅ハ致シマスガ、課稅ヲ餘程輕減スルト云フコトニ致シタノデアリマ

ス、又二號三號ハ、課稅ヲ廢シマシテ法人稅ノ方ニ廻シタノデアリマスガ、其ノ關係ハ、是ハ法人稅法ノ改正デ賄ツテ居ルノデアリマス、即チ十七頁ノ從來ノ法人稅法ノ第六條、第十五條、執レモ法人ノ清算所得ノコトヲ規定致シテ居ルノデアリマスガ、從來ノ清算所得ハ、拂込株式金額又ハ積立金額ノ合計金額、之ヲ超過シテ剩餘財產ガアレバ、其ノ超過金額ヲ法人ノ清算所得トスル、斯ウ云フコトニ相成ツテ居ツタノデアリマスガ、先程ノ看做配當ヲ廢メマシテ、個人ニ對スル分ノ課稅ヲ法人ニ合セテ行フト云フ關係上、法人ノ清算所得ヲ擴張致シマシテ、積立金ト云フモノヲ此ノ條文カラ除イタノデアリマス、即チ積立金ナル分ハ、法人トシテノ課稅ハ既ニ受ケテ居ル譯デアリマスケレドモ、是ガ個人ニ配當サレマシタ場合ニ、個人ノ課稅ハマダ受ケテ居ナイ、其ノ方ハ從來ハ所得稅ヲ看做配當トシテ課稅シテ居ツタ、ソレヲ今回廢メマスノデ、積立金ト云フモノヲ法人ノ清算所得トシテ構成スルコトニシマシテ、個人分ニ對スル課稅ヲ法人ノ清算所得トシテ課稅シヨウトスルノデアリマス、從來ノ六條、十五條カラ積立金額ト云フモノヲ除イテ居ルノデアリマス、サウシテ其ノ次ノ十八頁ヲ御覽願ヒマス、稅率ヲ新シク此處ニ盛ツタ譯デアリマス、即チ十六條ノ二號、清算所得トシマシテ、從來ハ清算所得ニ對シテ所得金額ノ百分ノ三十ト云フ一本ノ稅率デアリマシタノ「積立金又ハ本法其ノ他ノ法律ニ依

リ法人稅ヲ課セラレザル所得ヨリ成ル金額」、其ノ部分ニ對シテハ百分ノ二十六、其ノ他ノ金額ハ所得金額ノ百分ノ四十八、斯ウ云フ風ニ二ツノ稅率ヲ設ケタノデアリマス、此ノ「積立金又ハ本法其ノ他ノ法律ニ依リ法人稅ヲ課セラレザル所得ヨリ成ル金額」、是ガ新シク作リマシタ分デアリマシテ、個人ノ代リニ此處デ課稅シヨウト云フ方針デアリマス、此ノ稅率百分ノ二十六ト申シマスノハ、普通ノ配當ニ對スル分類所得稅ガ、今回増稅セラレマシテ二十ニナツテ居リマス、之ニ從來ハ綜合課稅ヲ受ケテ居ツタ譯デアリマスカラ、從來ノ綜合課稅ノ分ノ稅率ヲ四ト大體推定致シマシテ、ソレヲ足シテ二十六ハ、是ハ全ク二十六全部個人ニ對スル課稅ヲ法人デ取ルト云フコトニ相成ル譯デアリマス、是等ノ積立金額或ハ法人稅ヲ課セラレザル所得ト云フモノハ、積立金ハ既ニ、法人稅ハ課稅ハ受ケテ居ルノデアリシ、其ノ他ノ所得ハ法人稅ヲ課セナイ分デアリマスカラ、全ク個人分ダケヲ此處デ取ルト云フ處置デアリマス、其ノ他ノ金額、是ガ從來ノ法人ノ清算所得ト同様ノモノデアリマシテ、其ノ稅率ハ四十八ト云フコトニナツテ居リマスガ、此ノ四十八ハ普通ノ從來ノ法人稅清算所得ニ對スル分ハ百分ノ三十デアリ、ソレガ今回三「パーセント」ノ増徴ヲ受ケテ三十三「パーセント」トナツテ居リマスガ、此「三十三「パーセント」ニ十五「パーセント」加ヘタモノガ四十八「パーセント」ナルノデアリマス、十五「パーセ

ント」ト申シマスノハ、前項ノ百分ノ二十六、之ニ該當スルモノデアリマシテ、即チ斯ウツタヤウナ金額ガ百ナラ百ト致シマス、其ノ中カラ個人ニ配當シ得ル金額ト云フモノハ法人ニカカル、法人稅ノ營業稅ヲ差引イタ殘リガ個人ニ課稅セラレルト云フナリマスカラ、法人稅ガ三十三、營業稅ガ地方稅ノ附加稅迄合セテ八「パーセント」、其ノ兩者ヲ合計致シマス四十「パーセント」、百カラソレヲ引キマシタ五十九、約六十「パーセント」ニナリ、二十六ノ稅ヲカケレバ勘定ハ合フ譯デアリマスノデ、二十六ノ約六割、十五「パーセント」ト云フモノヲ法人稅ノ本來ノ三十三「パーセント」ニ足シマシテ、四十八「パーセント」ト云フ稅率ヲ盛ツタ譯デアリマス、斯樣ニシテ新シイ稅率ヲ此處ニ二段作リマシテ、個人ノ看做配當ニ對スル課稅ヲ廢止シタ代リニ此處デ課稅シヨウト云フノデアリマス、尙、尤モ此ノ稅率ハ、後デ臨時租稅措置法ニ於キマシテ、合併ト力解散トカ云フモノガ政府ノ指導斡旋ニ依ツタ場合ハ、非常ニ輕減スルコトニナツテ居リマス、一應輕減シナイ前ノ稅率ハ、此ノ二十六「パーセント」ト四十八「パーセント」ト致シテ居ル譯デアリマス、次ニ所得稅ニ復リマシテ、次ノ上段デ申シマシテ、第十條バズツタアリマスガ、是ハ法文ノ整理デアリマス、即チ清算取引所得ノ課稅方法ヲ改正ヲシタノニ伴ヒマシテ、法文ノ整理ガ出テ參ルノデアリマス、次ノ第十二條ニ於キマシテハ、第

四號ノ「事業所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額」是ガ下ノ方デ御覽ニナルト、但書ガ附イテ居ツタノデアリマス、即チ水産業ノ所得ハ、前三年間ノ平均ト云フコトニナツテ居リマシタノヲ、水産業ノ所得ヲ今回ハ他ノ事業所得ト同様ニ、前年ノ實績ニ依ルト云フコトニ致シマシタノデ、但書ヲ削除シタ次第デアリマス、次ハ其ノ項ノ第十號、次ノ頁デアリマス、「清算取引所得ハ、取引一決濟毎ノ收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額」從來ハ「前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額」トナツテ居ツタノデアリマスガ、之ヲ改メテ、即チ前年中ノ清算所得、其ノ所得ノ損益ヲ通算致シマシタル益金ノ部分ニ累進課稅ヲ致シテ居ツタノデアリマスガ、今回ハ之ヲ改メシテ、一年間通算スルト云フヤウナ手數ヲ省略致シマシテ、一ツノ取引決濟毎ニ益金ガアレバ、ソレニ對シテ課稅スル、斯ウ云フ仕組ニ致シタ譯デアリマス、之ニ關シマシテハ八頁、其ノ次ノ頁ノ清算取引所得、此ノ稅率ヲ從來ハ百分ノ三十五、百分ノ五十、百分ノ六十五ト云フノヲ改正致シマシテ、百分ノ五、百分ノ十、百分ノ二十、即チ一年間損益ヲ通算致シマセヌデ、何回デモヤリマス、取引ノ度毎ニ益金ニ對シテ課稅スルト云フコトガアリマス、稅率ハズツト安ク致シタ譯デアリマス、又是ハ源泉課稅ヲ致スコトニナツテ居ルノデアリマスガ、其ノ關係ハ十四頁ノ上段ノ第七十二條「甲種ノ退職所得又ハ清算取引所得ニ對シタル分類所得稅ハ支拂者支拂ノ際ニ徴收シ云々」ト云フコトガアリマスガ、源泉課稅ヲスルコトニ致シタノデアリマス、又斯ウ云フ

ヤウニ清算取引ニ付キマシテハ、取引ノ度毎ニ其ノ都度先程ノ稅率デ源泉課稅ヲ致シマスノデ、後カラ一年間ヲ通算スル、例ヘバ取引ノ營業トシテ居ルヤウナ人トカ、年中株ヲヤツテ居ル業者ト云ツタヤウナ者ニ對シテハ、普通ノ所得稅ヲ課稅致シマスノデ、其ノ際ハ其ノ都度納メタル稅金、源泉課稅デ差引イタル分ヲ控除スルト云フヤウナ規定ガアルノデアリマス、十頁ノ二十三條ノ二、是ハ分類所得稅ノ控除デアリマスシ、十三頁ノ三十三條ノ二、是ハ綜合所得稅ノ控除デ、執レモサウ云フ關係カラ新シイ規定ヲ設ケタ譯デアリマス、次ハ所得稅ニ復リマシテ六頁ノ新法ノ第二十一條デアリマスガ、是ハ分類所得稅ノ稅率ヲ引上ゲタル規定デアリマス、御覽ノ通り何レモ三「パーセント」ノ引上ゲテ居リマスガ、唯第一「不動産所得」デハ百分ノ二十一「百分ノ二十三」ニ致シタ、後ハ三「パーセント」ノ引上ゲナツテ居リマス、ソレカラ其ノ次ハ八頁ニ參リマシテ、其ノ三項ニ該當致シマスガ、真中頃ニ「投資信託ノ利益ニ付テハ第一項中配當利子所得甲種第三號ニ規定スル稅率百分ノ二十三ハ之ヲ百分ノ二十一トス」、是ハ新シク追加致シマシタル項目デアリマシテ、即チ投資信託ノ利益ニ付キマシテハ、從來他ノ利子所得ト同様ニ百分ノ二十、今回增率セラレマシテ三分ノ課稅ヲ受ケル管ニナツテ居ツタノデアリマスガ、投資信託ニ付キマシテハ、大部分其ノ投資物件ガ株式デアアル、而モ株式ヨリモ色々不利ナ條件ガアルト云フヤウナコトヲ考慮致シマシテ、株式ヨリモ「パーセント」デケ安イ課稅ガ適當デアルト云フコトデ、投資信託ノ利益ニ對シテ新シイ稅率ヲ設

ケタ譯デアリマス、ソレト共ニ度々其ノ下ニアリマス舊來ノ稅法デアリマスガ、「銀行貯蓄預金、市町村農業會貯金、產業組合貯金、市街地信用組合貯金、其ノ他命令ヲ以テ定ムル預金ノ利子ニ付テハ第一項中配當利子所得甲種第三號ニ規定スル稅率百分ノ二十八ハ之ヲ百分ノ十五トス」、此ノ規定ヲ削除致シマシタ、此ノ規定ハ貯蓄銀行ノ預金利子デアルトカ、農業會產業組合ノ預金、市街地信用組合ノ貯金ト云ツタヤウナモノニ對シマシテハ、五千圓ヲ超エル部分ニ付キマシテハ他ノ銀行ノ預金ノ利子等ヨリモ五「パーセント」方輕減シテ課稅ヲ致シテ居ツタノデアリマスガ、是ハ色々ナ點カラ其ノ必要ガナイ、却テ弊害ノアル場合モアリマスノデ、今回ハ之ヲ削除致シマシタ、其ノ結果、是等ノ從來輕減ヲ受ケテ居ツタ預金ハ、他ノ銀行ノ普通ノ預金ト同様ニ、二十三「パーセント」ノ課稅ヲ受ケル、斯ウ云フコトニ相成ツテ居ルノデアリマス、其ノ他ハ稅率引上ノ法文ノ整理デアリマス、次ハ第二十二條デアリマスガ、是ハ外國又ハ外地ニ居住致シマス者ノ受取ル色々ノ所得ニ對スル稅率、之モ何レモ三「パーセント」程度ヅ、引上ゲタ譯デアリマス、稅率ノ引上ゲデアリマス、次ノ第二十三條ノ二、是ハ先程申上ゲマシタ清算取引ノ課稅ヲ改正シタ爲ニ新タニ設ケタル規定デアリマス、次ハ第三十條以下第三十三條ノ二、是ハ何レモ法文ノ整理、若シハ先程御說明致シタ分デアリマス、次ニ二十四頁デアリマス、十四頁ノ一番始メニ、第三十四條ノ末項ニナリマスガ、「政府ハ特別ノ事情アリト認ムルトキハ前項ノ申請ナキ場合ト雖モ第二十五條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲スコ

トヲ得」、ソレカラ第三十五條トシマシテ「政府ハ特別ノ事情アリト認ムルトキハ前項ノ申請ナキ場合ト雖モ第二十四條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲スコトヲ得」、此ノ二ツノ項目ハ新タニ挿入致シタノデアリマシテ、執レモ是ハ扶養家族ノ控除ニ付キマシテ、分類所得稅ノ中ノ甲種ノ勤勞所得、源泉課稅スル分ト其ノ他ノ稅務署デ決定スル所謂賦課課稅スル分トニ付キマシテ、申請ガアレバ扶養家族ノ控除ヲスル、斯ウ云フコトノ規定ガ第二十四條第二十五條ニアル譯デアリマスガ、從來ハ申請ガナケレバ、扶養家族ノ控除ハ致サナイト云フコトニナツテ居リマス、今回ハ斯ウ云フ新シイ項目ヲ設ケマシテ、申請ナキ場合ト雖モ控除ヲ爲スコトガ出來ルト云フコトヲ明カニ致シマシタ、即チ新規ノ所得納稅者等ガ扶養家族ノ控除ノ申請ヲ致サナイ、其ノ爲ニ申請スレバ課稅ヲ受ケナクテ濟ムモノガ課稅ヲ受ケル、所得稅ノ納稅ヲシナケレバナラヌト云フ事情モアリマスノデ、新シク斯ウ云フ規定ヲ設ケテ、事情ニ依リマシテハ、申請ナキ場合ニモ控除ヲ受ケルコトガ出來ルト云フコトニ改メタノデアリマス、次ハ第三十七條、是ハ從來ノ第三十七條ハ「四月三十日迄ニ所得調査委員會成立セザルトキハ云」ト云フコトニナツテ居リマシテ、之ヲ昨年改正シマシテ、從來五月三十一日迄ニ所得調査委員會調査ヲ經テ決定スルコトニナツテ居リマシタノヲ四月ニ改メタノデアリマス、一月繰上ゲタノデアリマス、併シナガラ現在ノ稅務ノ實情カラ見マス、此ノ繰上ヲ實行致シマスコトハ、當分見込ガナイ、手數、人手ノ關係其ノ他カラ見込ガナイト云フコトデ、改正前ノ矢張り五月

三十一日ト云フ期限ニ致シタイト云フコトデ、第三十七條ヲ改正シテ四月末ヲ五月末ト改メタルデアリマス、次ニ第七十三條ハ納期ノ改正デアリマシテ、即チ從來ノ納期ハ六月、九月、十一月、二月トアリマシタ分ヲ、八月ト一月ノ二回ニ改正致サントスルモノデアリマス、次ノ第八十四條ハ法文ノ整理、第六六條モ法文ノ整理デアリマス、以上デ所得稅ヲ終リマシテ、次ハ法人稅法デアリマスガ、法人稅法ニ付キマシテハ、看做配當ノ課稅ヲ改正スルコトカラ起ル關係ハ先程御說明申上ゲタル通りデアリマス、其ノ他ニ於キマシテハ新シイ第十二條ノ規定ヲ改正ガザイマスガ、是ハ重要物產ノ製造、採掘又ハ採取等ヲ爲ス法人ニハ法人稅ヲ免除スルコトニナツテ居リマシタガ、其ノ免除期間ガ今迄舊年デアツタノヲ、法人ノ事業年度ノ單位ニ合ハス、此ノ方ガ便利デアルト云フコトデアリマス、次ハ特別法人稅法デアリマスガ、是ニハ稅率ノ引上ト、並ニ法人看做配當ニ付テ御說明申上ゲマシタ法人稅ノ改正ト同様ナ趣旨ノ改正、即チ特別法人ニ付キマシテモ、解散合併等ノ場合ニ清算剩餘金ヲ貰ツテ、ソレハ從來看做配當トシテ所得稅ノ課稅ヲ受ケテ居ツタノヲ、特別法人ニ付テモ特別法人ノ清算剩餘金トシテ課稅スルコトニ改メタル結果、法人ト同様ノ改正ガアリマシタ、次ハ營業稅法ノ改正デアリマスガ、此ノ第十二條ハ先程ノ法人稅ト同ジヤウニ重要物產ノ製造、採掘又ハ採取等ヲ爲ス者ニ對スル免稅期間ノ改正デアリマス、第二十五條ハ納期ノ改正デアリマシテ、即チ從來八月、一月ト云フ二回ノ納期デアリマシ

タノヲ、今同ハ九月二月ト改メタノデアリマス、是ハ所得稅臨時利得稅ヲ通ジテ納期ノ改正ヲ致シテ居リマス爲ニ、營業稅ニ付テモ改正ガ行ハレタノデアリマス、次ハ臨時利得稅デアリマスガ、之モ納期ノ改正デアリマシテ、是ハ從來年四回デアツタモノヲ二回ニ改メ、又其ノ納期月ヲ適當ニ調整シタ譯デアリマス、次ハ地租法、此ノ第十一條ハ矢張り納期ノ改正デアリマシテ、從來ノ納期ハ、田租ニ付テハ一月、其ノ他ノ宅地租、畑地租ト云フヤウナモノニ付キマシテハ十月ト二回ニ分レテ居ツタノヲ、總テノ地租ヲ一本トシテ十一月ニ改メヨウトスルモノデアリマス、次ニ第七十一條ハ法文ノ整理デアリマスガ、第七十三條デ、從來少額ノ賃賃價格ノ土地ニ對シテハ地租ヲ課稅シナカツタ、賃賃價格五圓未満ノモノハ課稅シナカツタノヲ、手數等ノ省略ノ爲十圓未満ニ引上ゲマシタ、賃賃價格合計十圓未満ニハ課稅シナイト云フコトニ改正スルノデアリマス、其ノ他地租ノ改正ハ法文ノ整理デアリマス、次ハ通行稅法デアリマスガ、是ハ全ク稅率ノ引上ゲデアリマシテ、何等他ニ改正シタ所ハゴザイマセヌ、次ハ酒稅法デアリマスガ、是モズツト稅率ノ改正デアリマス、唯第三十頁ノ末カラ次ノ頁ニ懸ツテ居ル規定ノ改正シテ居リマスガ、是ハ加算スベキ稅額ノ規定デアリマシテ、從來ハ各種類ノ酒ニ付テソレレ、金額ガ別ニ定メテアリマシタノヲ、二割ヲ加算スルト云フヤウナ簡單ナ規定ニ改メテ整理デアリマス、次ノ頁ハ矢張りズツト稅率ノ引上デアリマスガ、第二十七條ノ三、是ハ價格特配酒ヲ廢止シタ規定デアリマス、即チ從來ノ第二十七條ノ三ニ「左

ニ掲グル酒類ニシテ大藏大臣ノ定ムル用途ニ充ツル爲命令ノ定ムル所ニ依リ製造場ヨリ移出スルモノニ付テハ第二十七條ニ規定スル稅率ニ依リ算出シタル金額ト左ノ割合ニ依リ算出シタル金額トノ差額ニ相當スル酒稅ヲ輕減ス、斯ウ云フ規定ガアリマシテ、重要營業事務者デアルトカ或ハ農村ト云フヤウナ方面ニ、特別ニ稅金ノ安イ酒ヲ配給スルト云フコトヲ致シテ居ツタノデアリマスガ、今同ハ其ノ價格特配酒ト云フモノヲ廢止スルト云フコトデ、此ノ從來ノ二十七條ノ三ヲ削除致シタ譯デアリマス、新タニ二十七條ノ三ガアリマスガ、ソレハ從來ノ條文ガ線上ツテ參ツタノデアリマシテ、從來ノ二十七條ノ三ヲ廢止シテ、價格特配酒ヲ廢止シタト云フコトナノデアリマス、次ノ頁ハ、大體三十四頁、三十五頁ニ互リマシテハ、大體技術的ナ改正デ、價格特配酒ヲ廢止シタノニ伴ヒ、罰則ヲ整理スルコトカ、條文ノ在リ方ヲ整理スルコト云フヤウナコトニ過ギマセヌ、次ノ三十六頁ノ八十三條、八十四條ハ、孰レモ是ハ稅率ノ引上トカ技術的ナ整理デアリマス、八十三條ハ東京都小笠原島及伊豆七島ニ於テ造ル酒ニ對シテ特別ニ安イ稅率ガアリマスガ、其ノ稅率ヲ適當ニ引上グル、八十四條ハ沖繩縣ノ特別ナ稅率ヲ引上グルト云フ規定デアリマス、次ハ遊興飲食稅法デアリマスガ、之ニ付キマシテハ實質的ナ改正ハ四十頁ノ第七號ニ「洋式ノ旅館以外ノ旅館ニ於ケル宿泊ノ料金但シ第三號ニ該當スル場合ヲ除ク」ト云フ、此ノ第七號ト云フモノヲ新タニ設ケタノデアリマスガ、此ノ趣旨ハ所謂「ホテル」以外ノ旅館、日本式ナ旅館ニ於キマシテハ、從來ノ規定ニ依リマス

ト、宿泊ノ料金ニ對シテ稅率ガ決メラレ、又其ノ宿屋ニ於ケル飲食料金ニ對シテモ別ニ遊興飲食ノ稅率ガ決メラレテ居ツタノデアリマス、之ガ計算上非常ニ手數ガ掛ルト云フコトデアリマスノデ「ホテル」以外ノ所謂日本式旅館ニ於キマシテハ、宿泊ノ飲食トト合セテ一本ニシテ稅率ヲ設ケル方ガ便利デアルト云フ趣旨カラ、茲ニ統合致シタヤウナ譯デアリマス、從ツテ此ノ第七號ヲ新タニ設ケマシタ關係上、前ノ頁等ニ少シノ修正ガアリマスガ、是ハ何レモ之ニ伴フ法文ノ整理デアリマス、ソレカラ其ノ次ノ四十頁カラ四十一頁ニ互リマス稅率ガ茲ニ擧ゲテアリマシテ、此ノ中ニ實質的ナ改正ガアリマシテ、即チ從來ハ一號カラ五號迄稅率ガ決メテアツタモノヲ、今同ハ六號カラ八號迄追加シタ意味ハ、納稅切符ト云フモノガアリマシテ、遊興飲食稅ニ於キマシテハ必ズ受取ヲ出シテ證紙ヲ貼レ、斯ウ云フコトガ原則デアリマシタガ、大衆的ナ飲食店等ニ於キマシテハ一々受取ヲ出シ證紙ヲ貼ルコトガ困難デアル、ソコデ其ノ場合ニハ簡單ナ納稅方法ヲ決メマシテ、納稅切符ヲ出シ、之ヲ受取ノ代リニ出スト云フヤウナ趣旨カラ、階級定額稅ノモノヲ決メマシテ、即チ一號ニ依リマス、一回二圓ニ滿タザルモノハ四十五錢、本來ノ稅率デ行キマスレバ何「パーセン」ト云フコトニナルノデアリマスガ、色々二圓以下デモ稅金ガ違ツテ來ルノデアリマス、ソレヲ二圓以下ノモノハ四十五錢一本ト決メテ、其ノ四十五錢ノ納稅切符ヲ出スト、斯ウ云フコトニ昨年カラナツテ居ルノデアリマス、此ノ簡單ナヤリ方ノ組織ヲ擴張致シテ、從來ハ五圓迄デアツタノヲ十圓迄ノ料

金ニ對シテ之ヲ適用シヨウ、斯様ナ趣旨カラ六號七號八號ト云フモノヲ追加致シマシテ、十圓迄ノ料金ニ對シテ稅率ノ增額ヲ定メタ次第デアリマス、其ノ他ハ法文ノ整理デアリマス、次ハ入場稅法デアリマスガ、是ハ總テ稅率ノ引上デアリマシテ、其ノ他ニ改正ハアリマセヌ、次ハ骨牌稅法デアリマスガ、之ノ改正ハ第五條ノ新シイ方ノ法律デアリマシテ、「骨牌稅ハ骨牌ノ包裹ニ印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ骨牌稅額ニ相當スル現金ヲ政府ニ納付シテ骨牌ノ包裹ニ納稅證印ノ押捺ヲ受ケ印紙貼用ニ代フルコトヲ得」、但書ヲ新タニ追加致シタ譯デアリマシテ、印紙ノ不足ト云フヤウナコトニ對處シマシテ、必ズシモ印紙ヲ貼ラナクトモ宜イト云フ規定ヲ設ケタ譯デアリマス、此ノ骨牌稅法ノ其ノ他ノ條項ノ改正ハ、總テ此ノ改正ニ基キ法文ノ整備デアリマス、次ガ臨時租稅措置法デアリマスガ、第一條ノ改正ハ「當分ノ内本法ニ依リ所得稅、法人稅、特別法人稅、營業稅、砂糖消費稅、登錄稅、鑛區稅及臨時利得稅ヲ輕減若ハ免除シ又ハ其ノ課稅標準ノ計算若ハ其ノ徵收ニ關スル特別ヲ設ク」、「其ノ徵收」ト云フ字ヲ入レタノデアリマスガ、此ノ趣旨ハ所謂法人ノ申告納稅制度ト云フヤウナモノヲ臨時租稅措置法ノ中ニ規定致シマシタノデ、「其ノ徵收」ニ關スル本來ノ法規ノ特別ヲ設ケ得ルヤウニ、茲ニ第一條ニ徵收ト云フ言葉ヲ附加ヘマシタ次第デアリマス、次ノ第一條ノ三、是ハ法人稅法等デ御説明申シマシタヤウナ重要物產ノ免稅期間ガ曆年ニナツテ居リマシタガ、事業年度ニ改メルト云フ改正ヲ致シタ次第デアリマス、次ニ第一條ノ四ニ八號、從來ハ

七號迄シカアリマセヌデシタガ、八號ヲ加ヘ「其ノ他命令ヲ以テ定ムルモノ」ト云フモノヲ入レタノデアリマス、即チ命令ヲ以テ定ムルモノハ特別ナ課稅ガ出來ルト云フコトニナツタノデアリマスガ、此ノ命令ノ内容トシテ命令デ定メルモノハ鐵道、軌道等ノ補修、修繕ト云ツタヤウナコトニ對スル課稅ノ特別デアリマス、即チ從來ハ年々鐵道、軌道等ノ補修、修繕ヲ爲シマシテ、其ノ修繕、補修ノ代金ガ經費トシテ損金ニ計上セラレマシテ、ソレダケ課稅ガ安クナツテ居リマシタ、處デ、最近資材ナドノ關係上サウ云フ補修ガ出來ナイ、併シ補修ハドウシテモセヌナラヌモノデアリマスカラ、將來資材ノ出來タ時補修スル、其ノ意味デ補修代金ニ相當スルモノヲ會社ニ留保シテ置ク、其ノ場合ニ於テ、是ハ普通ノ利益デアルトシテ課稅シタノデハ少シ不合理デアリマスノデ、サウ云フモノニ對スル課稅ノ特別ヲ設ケヨウトスルモノデアリマス、ソレカラモウ一ツ命令ヲ以テ定メマス分ハ、自作農創設ノ爲ニ地主ガ土地ヲ賣ル、斯ウ云フ場合ニ於テ公定價格デハナカ、地主ヲシテ土地ヲ賣ラシメルコトハ困難デアリマス、ソコデ政府カラ地主ニ對シテ補給金ヲ出ス、斯ウ云フコトニナツテ居リマスガ、是ガ地主ノ方カラ申シマスレバ、政府カラ受取ル補給金ト賣ツタ代金ト、併セテ兩方ガ土地ヲ賣ツタ代金トシテ課稅サレラレマシタカラ、不動産ノ讓渡利得稅ト云フモノヲ課稅致シマス際ニ、兩方合セテ地主ノ收入ニナルト云フコトニ計算シテ居ツタノデアリマス、併シソレデハ自作農創設ノ爲ニ政府カラ補給金迄出スト云フ趣旨ニ合致シナイト云フコトデ、其ノ補

給金ニハ課稅シナイ、斯ウ云フ取扱ニ
改メタイト思フノデアリマス、ソレヲ
此ノ八號ノ命令ニ規定致シタイト考ヘ
テ居リマス、次ノ第一條ノ八、ハハ稅
率ノ改正デアリマス、第一條ノ九、是
ハ改正ハ稅率ノ改正ダケデアリマス
ガ、此ノ意味ハ、從來命令ヲ以テ定メ
ル預金貯金等、即チ長期ノ預金ニ對
シマシテハ、貯蓄獎勵ノ趣旨カラ分類所
得稅ノ稅率ヲ百分ノ五輕減シテ居ツタ
ノデアリマスガ、今回ハ更ニ輕減率ヲ
百分ノ五カラ六ニ引上ゲヨウト云フコ
トナノデアリマス、尙之ト同時ニ法律
ニハ現レテハ參リマセヌガ、輕減ノ條
件ガ長期ト申シテ從來ハ三年間繼續シ
タ預金ニ對シテ適用シテ居リマシタ
ノヲ、期限ヲ二年間ニ改メタイト思ヒ
マス、是ハ命令事項デアリマスノデ、
是ニハ現レテ居リマセヌ、尙長期ノ預
貯金ノ輕減ノ規定ハ、先程申シマシタ
市町村農業會デアルトカ、貯蓄銀行ノ
預金ト云フモノハ、從來分類所得稅目
體ニ於テ輕減ノ稅率ノ適用ヲ受ケルコ
トニナツテ居リマシタノデ、此ノ規定
ノ適用ガナカツタノデアリマスガ、先
程申シマシタヤウニ、向フノ輕減ヲ廢
止致シマシタノデ、此ノ輕減規定ノ適
用ガアルヤウニ改正スル譯デアリマス
ス、次ノ一條ノ十、一條ノ十四、孰レ
モ稅率ノ改正デアリマス、次ニ一條ノ
十七、是ハ「法令、法令ニ基ク命令又
ハ行政官廳ノ指導若ハ輪旋ニ依リ」企
業整備等ノ必要ニ依ツテ、法人ガ合併
又ハ解散シタ場合ニハ、清算所得ノ課
稅ヲ輕減スルコトニ從來カラナツテ居
ツタノデアリマスガ、其ノ輕減ハ、先
程一番初メニ申上ゲマシタ看做配當等
ト一緒ニナリマシテ、非常ニ稅率ガ從
來トハ違ツテ參ツタ譯デアリマス、十

八頁デ申シマシタ積立金等カラ成ルモ
ノハ百分ノ二十六、個人ニ對スル代リ
ノ課稅デアリマスガ、之ヲ半減致シマ
シテ、政府ノ指導輪旋ノ爲ノ企業整備
等ニ依ツテ、合併又ハ解散シタ場合ニ
ハ、個人ノ分ノ代リニ取ル二十六ヲ十
三ニ、半分ニ輕減スル、ソレカラ其ノ
他ノ金額、所得金額ノ百分ノ四十八普
通ハ取ル分ヲ、資本金ヲ百萬圓超ト百
萬圓以下ニ分ケマシテ、百分ノ二十七
ト百分ノ三十二ニ輕減スルト云フコト
ニ致シテ居リマス、此ノ稅率ハ細カク
申シマス、大體個人ノ分ヲ半分ニ分ケ
テ、法人ノ分ニ付テハ從來ノ輕減ノ割
合ニ今回ノ増稅分ヲ増稅ヲシナカツタ
ト云フ所カラ、此ノ稅率デ計算シテ居
ルノデアリマス、個人ニ對スル分ハ半
減、法人ノ分ハ從來通りノ稅率ニ據置
イテ、稅率ヲ計算シタト云フコトニナ
ツテ居リマス、次ガ一條ノ十八、是ハ
所謂、壓縮記憶ノ問題デアリマスガ、
之モ期限ヲ延長致シマシタ、是カラノ
條文以降ニ、企業整備等ノ必要ノ爲ニ
事業ヲ廢止スルトカ或ハ讓渡スルト
カ、或ハ其ノ爲ニ個人ノ所得ガ減ルト
カ、サウ云フヤウナコトニ對シテ色々
ト所得稅、營業稅、臨時利得稅、法人
稅等ヲ輕減スル規定ガズツタアリマス
ガ、是ハ概ネ昭和二十年ノ三月三十一
日迄ニ企業整備等ヤツタ場合ニ輕減
スルト云フヤウナ規定ニナツテ居リマ
シタノヲ、一箇年延長スルト云フ改正
ガズツタ續イテ參リマス、其ノ分ノ說
明ハ省略致シタイト思ヒマス、一條ノ
十八ハ期限ノ延長ダケデアリマスガ、
一條ノ十九、是ハ全ク新シイ規定デア
リマス、從來會社等ガ合併等ヲ致シマ
ス場合ニ、合併條件ヲ揃ヘル爲ニ積立金
ノ非常ニ多イ方ノ會社ガ、其ノ積立金

ヲ拂込資金ニ振り替ヘルト云フヤウナ
コトヲ致セバ、非常ニ都合ガ好イ場合
ガアリマス、又積立金ガ非常ニ多イ會
社デアツテ拂込金ガ比較的少イ、資本
金ガ少イト云ツタヤウナ場合ニ、配當
金ガ、積立金モ含メタ自己資本ニ對シ
テ極ク低率ノ配當デアリニモ拘ハラ
ズ、拂込金ガ資本金ガ少イ爲ニ、二割
ノ配當デアルトカ、一割七八分ノ配當
デアルト云ツタヤウナ例ガアリマス、
サウ云フ場合ニ積立金ヲ資本金ニ振リ
替ヘルト云フヤウナ調整ガ出來レバ、
非常ニ其處ラガウマク參ルノデアリマ
スガ、積立金ヲ資本金ニ振リ替ヘマシ
タ場合ニハ、稅法カラ見マスト積立金
ヲ一應取り崩シマシテ株主ニ配當シ
テ、其ノ株主ガ新シイ株ノ拂込金ヲ拂
込シタト、斯ウ見ラレルノデアリマシ
テ、其ノ結果個人ノ所得稅、綜合所得
稅等ニ於テ相當高イ稅率ヲ負擔シナケ
レバイケナイ、從ツテ只今申シタヤウ
ナ方法ガ採リ得ナカツタノデアリマス
ス、ソコデ今回ハ此ノ一條ノ十九ヲ新
シク設ケマシテ、サウ云ツタヤウナ
場合ニ於ケマシテ、特ニ必要アリマス
場合ニハ、十分ノ五ヲ控除シタル金額
ニ依リ所得稅ヲ賦課スル、半分稅金ハ
負ケヨウト云フ新シイ規定ヲ設ケタノ
デアリマス、尙從來ノ第一條ノ十九、
是ハ不用ニナリマシタノデ削除致シテ、
新シク只今申シタ規定ガ一條ノ十九ト
シテ入ツテ參ツタ譯デアリマス、次ニ
第一條ノ二十ハ、第一項ハ先程申シタ
期限ノ延長デアリマス、第二項ハ期限
ノ延長ノ外ニ實質の意味ガアルノデア
リマシテ、從來ハ、營業即チ甲種ノ事業
所得ニ對シテノミ斯ウ云フ輕減ガ行ハ
レテ居ツタノデアリマスガ、營業以
外ノ事業ノ全部又ハ大部分ヲ廢止シタ

ル個人ノ當該事業ヨリ生ズル所得ニ付
之ヲ準用ス、斯ウ云フ規定ヲ新シク
設ケマシテ、營業以外ノ事業、乙種ノ
事業デアリマスガ、サウ云ツタヤウナ
モノガ企業整備其ノ他デ所得ガ減ツタ
ト云フヤウナ場合ニモ輕減ノ規定ヲ適
用スルコトニ致シタ譯デアリマス、新
シク此ノ規定ヲ插入致シマシタ、次ニ
一條ノ二十一、是ハ期限ノ延長ノ外
ニ、矢張り先程ト同ジヤウニ從來ハ營
業ニノミ適用サレテ居ツタノヲ廣ク事
業ト致シマシテ、營業以外ノ事業ニモ
之ガ適用ガアルト云フコトニ致シマシ
タノト、其ノ終ヒノ方ニ「徵用ニ因リ
退職シタル者云々」ト云フ規定ヲ新シ
ク設ケマシテ、徵用ニ依ツテ勤務所得
者ガ非常ニ收入ガ減ツタト云フ場合
ニ、新シク輕減ノ規定ヲ此處ニ設ケタ
次第デアリマス、次ニ一條ノ二十二
是ハ不動産トカ船舶トカ、砂鑛業ノ權
利ト云フヤウナモノヲ讓渡致シマシタ
場合ニ、臨時利得稅ノ讓渡利得稅ト云
フモノガカ場合ガアルノデアリマス
スガ、此ノ讓渡ガ特別ノ原因ニ依ル場
合ニハ、之ヲ輕減スルト云フ規定ガ
從來カラアツタ譯デアリマスガ、此ノ
規定ヲ期限ヲ延長致シマシタノト、其
ノ外ニ從來ノ輕減ハ二割ノ輕減デアリ
マシタノヲ、今回ハ三割ノ輕減ニ擴張
スルト云フコトガ「一ツ、次ニ第二項ヲ
設ケマシテ、「前項ノ場合ニ於テ不動
產又ハ不動産上ノ權利ノ讓渡ガ防空法
第五條ノ十ノ規定ニ基ク命令ニ依ルモ
ノナルトキハ當該讓渡ニ因リ生ズル利
得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ臨時
利得稅ヲ免除ス、三割負ケルコトニ
一般ニ擴張シタ外、特ニ防空法第五條
ノ十ノ規定ニ基キタモノ、即チ疎開等
ノ場合ニ於テ、其ノ疎開ガ強制疎開デ

アツテ防空上ノ必要ニ基キテ取壞スト
云ツタヤウナ強制疎開ノ場合ニハ、讓
渡利得稅ヲ課稅シナイ、昨年各地ニ行
ハレマシタ強制疎開ハ概ネ之ニ該當ス
ルノデアリマシテ、免除スルコトニ致
シタ譯デアリマス、其ノ次ノ第一條ノ
二十三、是ハ企業整備等ノ爲ニ營
業ヲ廢止シタ場合ニ政府等カラ
ノ補償金ニ對スル課稅ノ輕減規定デア
リマスガ、此ノ期限ヲ延長致シマシ
タ、次ハ一條ノ二十五デアリマスガ、是
ハ山林ノ伐採増伐所得、一定ノ時期ヨ
リ山林ヲ澤山伐ツタ、其ノ場合ニハ山
林ヲ澤山伐ツタノデアルカラ所得ガ多
クナル、從ツテ所得稅ノ課稅モ多クナ
ルト云フコトニナルノデアリマスガ、
山林ノ増伐ヲ獎勵スル趣旨カラ、從來
其ノ所得ノ十分ノ三ニ相當スル金額ヲ
控除シテ課稅スル即チ三割ノ輕減ガア
リマシタノヲ、今回五割擴張致ス
ト云フ改正デアリマス、次ハ一
條ノ二十六、是ハ特ニ企業整備ト
カ政府ノ徵用トカ云フ問題デナク、兎
モ角現在ノ所得稅、營業稅ト云フモノ
ハ、其ノ前年ノ實績ニ依ツテ課稅ヲ致
ルテ居ルノデアリマスガ、ソレガ非常
ニ減リマシタ場合ニハ、酷ナ場合ガ往
往ニシテアツタノデアリマス、ソコデ
從來ト雖モ營業等ニ付キマシテハ、前
三箇年ノ平均ヨリ五割以上モ減ツタト
云フヤウナ場合ニハ、輕減ノ規定ヲ設
ケテ居ツタノデアリマスガ、今回ハ之
ヲ整備致シマシテ、前三箇年デナク、
前年ノ實績ニ依リ其ノ年ノ收入ガ五割
以上減ツタ稅金ヲ輕減シヨウト云フ
コトニ改メタ譯デアリマス、又斯ウ云
フ輕減規定ハ從來ハ三萬圓以上ノ所得
金額ガアレバ適用シナカツタノデアリ
マスガ、之ヲ五萬圓迄引上ゲルト云フ

改正ヲ致シマシタ、ソレカラ其ノ條文ノ末項ニ依リマシテ、從來是等ノ輕減規定ハ營業ノ適宜ヲ用ヒテ居リマシタノヲ、新シイ事項ヲ挿入致シマシテ、普通ノ營業以外ノ事業所得、乙種ノ事業所得ニ對シテモ、此ノ輕減規定ヲ適用スルコトニ新シク致シタリマシタリマシ、次ノ一條ノ二十九、是ハ企業整備資金措置法等ニ依リ政府特殊借入金ト云フモノガ出來ルコトニナルノデアリマスガ、政府特殊借入金ハ、國債ト同様ノモノデアルト云フ趣旨カラ、國債ト同様ノ課稅ヲスル、他ノ預金ノ利子等ヨリモ輕イ課稅ヲ致シテ居ルノデアリマス、其ノ規定ヲ臨時資金調整法ノ規定ニ依ツテモ、政府特殊借入金ヲヤルコトニナリマシタノデ、ソチラニ擴張ヲ致スト云フ改正デアリマス、次ノ一條ノ三十二、是ハ全然新シイ規定デアリマシテ、法人ノ納付シタル罰金又ハ科料ト云フモノヲ課稅上今迄損金ニ入レテ居ツタ、法人ノ各種ノ課稅上損金ニ見テ居タノデアリマスガ、是ハ損金ニ見ル結果、ソレダケ所得ガ減リマシテ、罰金ヲ一萬圓納メタト假定致シマス、一萬圓ダケ所得ガ減ツテ、之ニ對スル稅金、法人稅臨時利得稅ヲ計算致シマス、相當ノ割合ニ達スルノデアリマス、ソコデ罰金ハ損金ニ認メナイト云フ規定ヲ新シク設ケタノデアリマス、尙其ノ下ノ一條ノ三十二、從來ノ三十二ノ規定、是ハ今度ノ改正ニ伴ツテ不用ニナリマシタノデ削除致シマシテ、新シイ規定ト置キ換ヘタリマシタリマス、次ノ一條ノ三十三、是ハ同様ニ看做相當ノ課稅方法ヲ改正スルノ三十五、是モ同様ノ法文ノ整備デアリマス、次ノ一條ノ三十五、是モ同様ノ法文ノ整備デアリマス、次ノ一條ノ三十五、是モ同様ノ法文ノ整備デアリマス、

六條迄新シイ條項ヲ入レタノデアリマス、尙從來ノ下ノ方ノ、第二條以下十三條、此ノ規定ハ、事變前ニ比シテ田畑ノ所得デアルトカ營業ノ所得ガ、非常ニ減ツテ居ルト云フヤウナ場合、臨時利得稅ハ非常ニ殖エテ居ル場合、稅金ハ餘計取ルノデアリマスガ、逆ニ減ツタ場合ニハ輕減スルト云フ趣旨カラ、二條以下十三條ノ規定ガアツタノデアリマスガ、是ハ今日餘リ適用モアリマセヌシ、又先程申シタヤウニ其ノ年ノ所得ガ前年ニ比ベテ五割以上減ツテ居ルモノニハ輕減スルト云フ規定ヲ整備擴張ヲ致シマシタノニ應ジマシテ、從來ノ、事變前ニ比ベテ減ツタモノノ輕減スルト云フ二條以下十三條ノ規定ハ削除致シマシタ、其ノ代リニ條文ノ位置トシマシテハ、第二條以下新シク法人ノ申告納稅制度ヲ此處ニ規定シタリマシマスガ、之ニ付キマシテハ、第二條ハ命令ヲ以テ定ムル法人、是ハ資本金五百萬圓以上ノ、公稱資本金デスガ、會社ヲ豫定シテ居リマス、ソレト大藏大臣ガ指定スル法人ト云フモノヲ命令ヲ以テ定メタイノデアリマス、統制會社デアルトカ、其ノ他經理ガキチント規定サレテ居ルヤウナ法人ヲ指定スル積リデアリマスガ、サウ云ツタヤウナ法人ニ付キマシテハ、決算確定後六十日以内ニ稅金ノ申告ヲスル、第三條ノ其ノ申告ト同時ニ、自分計算シタ各種ノ稅ヲ納付スベシト云フコトヲ規定致シタノデアリマス、ソレカラ第四條ニ於キマシテ、其ノ自分計算シテ政府ニ納付シタ稅金ガ、實際後日稅務署ガ調査致シマシテ、不足スルト云フヤウナ場合ニ於キマシテ、或ハ第三條ノ規定ニ違反シテ、自分分稅金ヲ全然拂込マナイト云フヤウ

ナ場合ニ於キマシテハ、其ノ不足額ニ對シテ一定ノ日歩ニ該當スルモノヲ稅金トシテ加算スルト云フコトヲ明カニシタノデアリマス、尤モ是ハ稅務署ノ決定ト法人ノ見解ガ、異ニスル項目モアリマシテ、色々ト稅務署ノ方ガ後カラ多クナルト云フヤウナ場合モアリマス、サウ云フ場合ニ過意金ヲ取ルノデ、命令ト云フコトハ酷デアリマス、命令ト云フコトハ所ニ依ツテ取ルコトニ致シマシテ、大體會社ガ株主總會ノ承認ニ基ク計算ニ依ツテ算出シテ居レバ、過意金ハ取ラナイト云フコトニ致ス積リデアリマス、尤モ株主總會ノ承認ヲ得タ計算上ノ利益ト云フコトニ致シマシテモ、明カナルモノニ付テ、例ヘバ稅金ハ損トシナイガ、會社ハ稅金ヲ損トスルト云フコトニ付キマシテハ調整ヲ致シマスガ、其ノ際ニ於テ株主總會承認ヲ得タル計算ニ對シテ稅ヲ納メテ居レバ、過意金ヲ取ラナイト云フコトニ致シタイト考ヘマス、次ニ第五條ハ是ハ法文ノ整備デアリマス、第六條ハ從來斯ウ云フ制度ヲ取リマセヌ前ニ於キマシテハ、納稅施設法ニ依リマシテ、法人ハ稅金ニ相當スル金額ヲ預貯金ニスルト云フコトヲ命ゼラレテ居タノデスガ、稅金ヲ納メレバ其ノ規定モ必要ガアリマセヌノデ、此ノ規定ノ適用ヲ排除シタリマシマス、次ニ第十三條ハ條文ノ整理デアリマス、次ノ第十二條ノ三、之モ登錄稅ノ免除デアリマスガ、其ノ企業整備等ノ期限ヲ一年間延長シタ改正デアリマス、次ガ所得稅法人稅内外地關係法デアリマスガ、是ハ全部極ク技術的ノモノデアリマシテ、内地ニ於キマシテハ清算取引所得ニ對スル所ノ課稅ヲ改正致シタノト、外地ニ於テ内地ノ增稅ト共ニ色々改正

ヲ致シマシテ、朝鮮臺灣等ニ於テ内地ノ丙種ノ事業所得ニ相當スル所得稅ヲ新設又ハ増率致シマスノデ、ソレ等カラ生ズル内外地ノ負擔ノ調整ヲ致ス技術的ノ改正ガ全部是デアリマス、次ガ戰時災害國稅減免法デアリマスガ、從來ノ第二條ヲ改正致シタノデアリマスガ、特ニ改正ノ要點ヲ申上ゲマス、新ラシイ方デ讀ミマス、政府ハ戰時災害アリタル地方ニ於テ納付スベキ國稅及戰時災害ニ因ル被害者ノ納付スベキ國稅ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ課稅標準ノ計算、調査及決定、此ノ「調査及決定」ト云フコトヲ新シク附加ヘテ居リマス、又「政府ハ戰時災害アリタル地方ニ於ケル所得調査委員會ニ關シ勅令ノ定ムル所ニ依リ特例ヲ設クルコトヲ得、斯ウ云フコトヲ追加致シタノデアリマス、即チ前段ノ調査及決定ニ關スル特例ヲ設ケルト申シマスコトハ、從來ハ戰災ニ關シテ色々輕減スル爲ニ、課稅標準ノ計算ニ關シテ特例ヲ設ケルコトニナツテ居ツタノデアリマスガ、更ニ進メマシテ、今後ノ戰時災害ノ狀況如何ニ依リマシテハ、例ヘバ所得稅トカ營業稅ニ付キマシテハ、所得調査委員會ノ議ニ付シテ決定スベシト云フコトガ法律上ノ條件ニナツテ居リマス、併シナガラ所得調査委員會ガ開ケナイ場合デアルトカ、或ハ先程モチヨツト讀ミマシタヤウニ所得調査委員會ニ一定ノ法定ノ期限ガアル、サウ云フ期限ヲ守レナイ場合ニ於キマシテハ、已ムラ得ヌ時ニハ機宜ニ應ジテ便法ヲ講ジ得ルヤウニ調査及決定ニ關シテ特例ヲ設ケルコトガ出來ルト云フ規定ヲ設ケマシタ、又所得調査委員會ニ付テ、之ガ法定出席數トカ議事ニ關スル色々ノ法定ノ要件ガアリマスガ、

斯ウ云フ所得調査委員會ノ運用ニ關シテモ、法律上ノ要件ヲ備ヘ得ナイ場合ヲ豫想サレマスノデ、之ニ對處スル規定ヲ設ケムトスルモノデアリマス、第三條ニ於キマシテハ色々戰時災害ノアツタ地方、或ハ戰時災害ノ被害者ノ納ムル稅等ニ付テ、申告申請等々色々稅務署ガ要求シテ居ル、サウ云フモノノ期限ニ關シテ特例ヲ設ケル、其ノ中ニ審査ノ請求及異議申立等所得ノ決定ニ對スル審査ノ請求ハ二十日以内ト云フコトガアリマスガ、サウ云フコトニ付テ期限ヲ延長スルコトニ致シタイノデアリマス、次ノ項ハ新シク設ケタモノデアリマシテ、是ハ支拂調書トカ、計算書等ヲ法律ニ依ツテ出サナケレバナラヌモノガアリマスガ、サウ云フモノニ付テ、場合ニ依ツテハ出サナケレバ宜イト云フコトニ致シマシタリ、或ハ期限ヲ變更シタリスルコトノ出來ルヤウニ規定ヲ設ケタ次第デアリマス、次ハ納稅施設法デアリマス、納稅施設法ノ改正ハ、全部各條新シク規定シタノデアリマシテ、是ハ所謂納稅團體ガ納稅資金ヲ管理スル、或ハ納稅團體ニ委託シテ稅金ヲ納メテ貰フト云フ場合ニ、納稅資金ガ亡失シタ時、從來之ヲ救済スル規定ガナカツタ、從ツテ從來ノ儘デアリマス、法律的ニハ委託シタ納稅者ノ損失ニナルト云フコトデアツタノデアリマスガ、今同之ヲ直シテ六條ノ二ニ依ツテ、サウ云フ場合ニ於テハ納稅者ニ對シテ課稅ヲ輕減又ハ免除スルコトガ出來ルト云フコトヲ第一項ニ規定シ、第二項ニ於テ、免除シテ貰ツタ場合ニ於テハ、納稅者ガ、其ノ委託ヲ受ケテ管理シテ居タ團體其ノ他ニ對シテ、何等カノ賠償金ヲ貰フトカ不當利得ノ金額ヲ辨償シテ貰フト

云フ權利ヲ失ツテシマフ、納稅者ハモ
ウソレデ權利ガナイト云フコトヲ明カ
ニシ、第三項ニハ輕減又ハ免除セラ
レタモノハ、納稅資格要件ニ付テハ
輕減又ハ免除セラレナイト云フ規定
ヲ入レテ居リマス、第六條ノ三ニ於
テ、政府ハ其ノ亡失ガ納稅團體ノ役
員、使用人等ノ故意又ハ過失ニ因ル
認メラレル時ニハ、一定ノ手續ヲ經
テ之ノ賠償ヲ命ズル、輕減又ハ免除シ
タル國稅額ノ全部又ハ一部ニ相當スル金
額ノ賠償ヲ命ズルコトニ致シタルデ
アリマス、第六條ノ四ハ此ノ輕減ノ規
定、賠償ノ規定等ヲ、國稅ノミナラズ
都道府縣其ノ他公共團體ノ租稅公課ニ
付テモ、以上ノ規定ヲ準用スルコト云
フコトニ致シタルデアリマス、次ハ輕金
屬製造事業法、是ハ簡單ナコトデアリ
マシテ、稅ヲ免除スル期限ヲ延長シタ
ノデアリマス、次ハ國民貯蓄組合法、
アリマス、是ハ市町村農業者等ニ於
キマシテハ、一ツノ農業會トシテ團體
ガ出來テ居ルノデアリマシテ、ソレガ
色々農業會ニ貯金致シタ場合ニ、其ノ
貯金ガ國民貯蓄組合ノ要求スル條件ヲ
適ヘテ居リマシタ場合ハ、即チ二年以
上引出サナイトカ、引出スニハ組合長
ノ承認ヲ要スルコト云フヤウナ、國民貯
蓄組合ノ要件ヲ備ヘテ居ル場合ハ、國
民貯蓄組合ト云フヤウナ決成ヲ要シナ
イデ、農業會ノ儘デ直チニ國民貯蓄組
合ト同様ノ恩典ヲ與ヘル、即チサウ云
フ要件ヲ備ヘテ居レバ、一萬圓迄ハ所得
稅ヲ課サナイコトニナツテ居ルガ、之
ヲ農業會ノ貯金ニ準用シテ、サウ云フ
恩典ヲ農業會ノ貯金ニ與ヘヨウトスル
改正デアリマス、其ノ次ノ附則デアリ
マスガ、是ハ概ネ別ニ御説明ヲ要シ
イト思ヒマスガ、是等ノ改正規定ハ四

月一日カラ施行スル、個人ノ所得ニ關
スル分ハ昭和二十年分カラ適用シ、法
人ニ關スル課稅増稅等ハ、從來ノ例ニ
依ルモ其ノ通りデアリマスガ、本年ノ
一月一日以後ニ終了スル事業年度カラ
適用スルコト云フヤウナコトヲ明カニシ
テ居リマス、以上大分ゴタ／＼シテ御
聽キ苦シカッタト思ヒマスガ、大體ノ
御説明ト致シマス

○委員長(伯爵林博太郎君) 色々之ニ
付テ御質問モアルト思ヒマスガ、細カ
イ事ハ後ニ御願ヒシマシテ、内田君カ
ラ通告ガアリマシタカラ、此ノ際内田
君ニ御質問願ヒマス

○内田重成君 私人ハ、モウ少シ後デ御
願ヒシマス

○政府委員(田中豐君) 昨日橋本委員
カラノ、農家ニ對スル課稅ノ問題ノ數
字ヲ申上ゲマセヌデシタガ、田畑ノ所
得ニ對シテ分類所得稅ヲ課稅致シテ居
リマスノハ、人員ニシテ二百萬人、是
ハ賦課課稅ヲ、其ノ他ノ營業デアルト
カ農業以外ノ事業等ニ課稅シテ居ル人員
四百五十萬ニ對シテ、農家ノ田畑所得
ニ對スル分ガ四割五分ヲ占メテ居リマ
ス、田畑ノ所得金額ガ十七億七千七百
萬圓、全體ノ賦課課稅分ノ所得ハ七十
七億八千八百萬圓、約二割三分ヲ占メ
テ居リマス、之ヲ更ニ三千圓以上ノ所
謂綜合所得稅ヲ課稅シテ居ルモノニ付
テ見マス、地主、自作者、小作者ノ
綜合所得ヲ合計シテ、綜合所得稅ノ課
稅ヲ受ケテ居ルモノハ十九萬七千人、
全體ノ綜合所得ノ納稅者ハ百三十九萬
九千人、約一割四分ニ該當致シマス、
其ノ所得金額ハ五億八千萬圓デアリマ
シテ、全體ノ所得七十七億ニ對シテ、
割合ハ約七分五厘ト相成ツテ居リマ
ス、尙是ハ昭和十九年度ノ決定ニ基

テ取調ベタ數字デアリマス、ソレカラ
當委員會ノ正式ノ御質問デアリマセ
ヌガ、御尋ニ與リマシタルデ序ニ御
答ヘ致シマス、今回ノ增稅額ヲ都市
ト農村トニドウ云フ風ニ負擔サセルカ
ト云フ問題デアリマス、是ハナカ／＼
計算ガムヅカシウゴザイマシテ、正確
ナ計算ハ困難ダト思ヒマスガ、色々ト
假定ヲ遂觀ヲ加ヘテ、一應推計致シマ
ス、平年度十八億五百萬圓ノ增稅
額、之ニ對シテ農村ノ負擔ト認メラレ
ルモノハ約三億五千萬圓、二割足ラズ
ノモノニ相成ルカト考ヘマス

○委員長(伯爵林博太郎君) ソレデ
ハ、三浦君カラ御質問ヲ願ヒマス

○三浦新七君 昨日下午條委員會カラ、例
ノ申告納稅ニ關係スル質問ガゴザイマ
シテ、又只今モ説明ガアリマシタル
デ、大體意味ハ分リマシタルヤウデアリ
マスガ、ソレニ付テノ希望ヲ申上ゲ
テ、政府ノ方ニサウ云フヤウナ意向ガ
御有リニナルカドウカ、ソレヲ御伺ヒ
致シタイト思フノデアリマス、ソレハ
只今ノ御話デ、此ノ申告納稅ト云フヤ
ツハ五百萬圓以上ノ會社若シタハ其ノ
經理ガ整ツテ居ルモノト認メラレルト
云フ特別ノ條件ガアル者ニ付テ、サウ
云フ方法ヲ行フ、斯ウ云フ御話デアツ
タノデアリマスガ、是ハ其ノ二十年
度分ノ國家ノ收入ヲ增加スル、納稅ノ收
入ヲ增加スルコト云フ方ノ目的カラ行
キマシテ、完全ニ其ノ目的ヲ達スルダ
ラウト思フノデアリマスガ、今度ノ增稅案
ノモウ一ツノ目的デアル浮動シテ居ル
購買力ヲ吸收スル、若シタハモツト具
體ノニ言フ、日本銀行券ヲ收縮ス
ル、貨幣ヲ收縮スルコト云フ問題カラ考
ヘルト、サウ云フ方面カラ考ヘルト、
モウ少シ命令ニ依ツテ決メラルベキ範

圍ヲ擴張シタ方ガ適當ナンデヤナイ
カ、斯ウ云フ風ニ考ヘラレルノデアリ
マス、ト申シマスノハ、今ノ五百萬圓
以上ノ會社若シタハ其ノ統制會社トカ
何トカト云フヤウナモノノ經理ガ完全
シテ居ルモノト云フノハ、大體ハ銀行
ノ預金勘定ヲ使ツテ居ルモノト見テ宜
カラウト思ヒマス、ソレデ稅金ヲ取ツ
テ見タ處デ、結局早ク取ツテ見タ處デ
是ハモウ初メカラシテ自分ノ所ニ手持
ノ金ガアルノデハナクシテ、結局預金
ガ減ツテシマフ、斯ウ云フコトニナツ
テシマフダラウト思ヒマス、又預金ガ
減ル、融通資本ガ足ラナクナツタ場合
ニ於テハ、サウ云フ大キナ會社ナリ時
局ニ必要ナ會社デアレバ、是ハ外ノ方
法デアテ行ク、他ノ借入金其ノ他ノ方
法デアテ行クコトニナルダラウト思ヒ
マス、ドウモ兌換券ノ收縮ト云フ方面
ニハ、大シタ效力ガナイデハナイカ
ト云フヤウニ感ザラレルノデアリマ
ス、ソレデ是ハ色々議論モゴザイマセ
ウガ、此ノ位ノ兌換券ノ増發ハ心配ナ
イト云フヤウナ考ヲ持ツテ居ル方モア
ルノデアリマスガ、兎ニ角近頃ノ傾向
ハ急激ニ増加シテ居ルノデ、何ダカ脅
カサレテ居ルヤウナ感ザラ持ツノデア
リマス、其ノ場合ハ一體去年ノ下半期
以後ニ於テ急激ニ増加シタ銀行券ガド
ノ邊ニ行ツテ居ルダラウカト云フコト
ニ付テハ、ドウモटनाタニ聽イテ見テ
モ、ハツキリシタ見當ガ附カナイノデア
リマスガ、大體把ニ想像スレバ、所謂
新興所得階級ト云ハレル方面ノ都會附
近ノ農家、詰リ相當ノ闊デ以テ生産品
ヲ賣ツテ居ル者、ソレカラ色々ノ物ノ
「ブローカー」ヲヤツテ居ル人、ソレカ
ラ所謂自由労働者ト申シマスガ、日儲ヒ

ト云フヤウナ階級ノ人ガ背中ニ背負ツテ
居ル、餘リ銀行ト關係モナシニ、又貯
金ヲスルト云フヤウナコトニナルト目
立ツタイケナイト云フヤウナ所カラ、
相當ニハ農家ニ付テサウナンデアリマ
スガ、農家ノ場合ニ於テハ、決ツタ政
府ノ助成金トカト云フヤウナモノハ農
業會デ天引シテ呉レルカラ貯金ニナル
ガ、其ノ以外ノモノト云フモノハ農業
會ニモ持ツテ行カナイシ、サレバト云
ツテ銀行ニモ持ツテ行カナイシ、事實
背中ニ背負ツテ居ルモノガ相當アルト
見テ居ル譯デアリマス、其ノ階級ニ相
當アル、ソレカラ近頃ニナツタ空襲等
ノ準備トシテ、各世帯ガヨリモ餘計
持ツテ居ル、自分ノ配給其ノ他ノ物ニ
付テ手持チガ餘計ニナツテ居ル、是ハ
今度始ツタコトデナイ、前カラアツタ
ノデアリマスガ、是ハ特別ニ増加シタ
コトニナラヌト思フノデアリマス、是
等ノ背中ニ背負ツテ居ル問題ハ、是ハ御
意見ハゴザイマセヌガ、自分ノ考デハ
左様心配ハナイ、物ガナイシ、買ヘナ
イノデアリマスカラ、サ程「インフレ
ーション」ト云フヤウナモノニ影響ヲ
來スモノデヤナイ、是ハ殘ラズ吸收シ
タニ越シタコトハナイノデアリマス
ガ、サウ直接ニハ響カナイノダラウト
思フノデアリマス、第三ニ考ヘルベキ
點ハ、詰リ時局ニ關係スル中小工業者
並ニソイツガ會社ノ形ニナツテ居ル小
サナ中小工業會社、此ノ方ノ所ニ金ガ
ダブツテ居ル、ダブツテ居ルト云
フノデヤナク、現金ヲ持ツテ居ルト云
フ傾向ガ著シイト云フ位ニ思フノデア
リマス、是ハ度々方々デ言ハレル通り
ニ、是迄闊デ材料ヲ買フ、闊デ以テ人
夫ヲ傭ハナケレバナラヌト云フヤウナ

所カラシテ、相當餘計現金ヲ所持シテ

居ル傾向ガアルト思ハレルノデアリマス、殊ニソレ等ノ小サナ會社ト云フモノハ下請工場デスガ、何トカ言フモノデスカラ、何時デモ貰ヘル、前拂ヲシテ吳レト言ヘバ何時デモシテ呉レル、斯ウ云フ所カラ、資金ノ運轉ト云フ所カラ恐ロシク放漫ニナツテ居ルヤウニ見エラデアリマス、斯ウ云フヤウナモノデスカラシテ、浮動資金ヲ吸收スルト云フ方法ハ、政府デモ色々考ヘラレテ、是等モ出來ルダケ銀行等ノ關係ヲ附ケテ、其ノ方カラ財政詰リ資金ノ調整ヲヤツテ行クト云フヤウナコトガ現ハレテ居リマスガ、ソレト同ジニ、斯ウ云フ方面カラ申告納稅ノ方法ニ依ツテ税金ダケヲ初メカラ取ツテ行クト云フヤウナコトガ、幾分ナリトモ吸收ノ途ニナルノデヤナイカト云フ風ニ考ヘルノデアリマス、殊ニ先程伺ツテ見マシタ所デハ、ソレ等ノ會社デハ兎ニ角株主總會ヲ開ク爲メ貸借對照表其ノ他ノ書類ハ拵ヘナケレバナラナイノデアリマス、經理ガ整ツテ居ラヌト云ツテモ、一通リ整ツテ居ル譯デアリマス、ソレニ對シテ本來課スベキ税金ト違ツタ場合ニハ、後デ計算スル時ニ過怠金ヲ取ラナイト云フ制度ニナツテ居ルストレバ、一應貸借對照表ニ出テ居ル面デ納稅セシムルト云フコトハ、サ程手續ヲ要スルトカ面倒ト云フヤウナコトデナイヤウニ考ヘラレル譯デアリマス、サウ云フ意味デ、昨日御話ガゴザイマシタヤウニ納稅ニ關スル稅務協會デスカ、サウ云フモノノ十分ニ働イテ居ラレルシ、ソレカラ各地ニアラウト思ヒマス商工經濟會ト云フヤウナモノガ、又納稅ニ對シテ相當相談ニ乗ツテ居ルヤウデアリマス、小サナ會社ニ對スル經理ト云フヤウナコトニ付テモ、大分色々

ナ方面カラ助成ガ出來ルヤウナ組織ニナツテ居リマスノデ、詰リ一方ニ於テハ動トモスレバ放漫ニナリカケル中小工業會社ノ經理ヲ明カニシテ、之ニ依ツテ所謂原價計算ト云フヤウナ方法モ使ヒ得ルヤウナ方ニ迄進ミ得ルヤウニスル、ソレト同時ニ他方ニ於テ現金ヲ吸收スル、ソレニ依ツテ資材ノ偏在ヲ防グ、詰リ是等ノ會社ガ關行爲ヲスルコトニ依ツテ資材ガ偏在スルノデアリマスカラ、ソレヲ防グト云フヤウナコトニナル、ソレヲ防グデヤイケンイノデアリマセウガ、兎ニ角幾分デモ助成セラレルト云フヤウナ工合ニ考ヘラレルノデアリマス、何トカ之ヲ一般的ノ法ニ適用スルト云フ位ナ所迄、自分ハ進ンダラ如何デアラウカト云フ考ヲ持ツテ居リマスガ、政府ノ方デハドウ云フヤウナ御意見ヲ持ツテ居ラレルカ、ソレニ付テ御伺ヒシタイノデアリマス

○政府委員(田中豐孝) 所謂法人ノ申告納稅制度ヲ、モツト廣ク擴張シテ通貨吸收面其ノ他色々觀點カラ、全法人ニ及シテハドウカト云フ御意見デアリマシテ、誠ニ御尤モダト思フノデアリマス、唯一應政府ガ只今考ヘテ居リマス所ハ、先程御説明申上ゲマシタヤウニ、差當リ五百萬圓以上ノ大法人其ノ他之ヲ適用シテモ、サシタル手數ヲ民間會社側ニ掛ケナクテ出來ルト思ハレルヤウナ會社ヲ指定シチヤリタイト、斯様ニ考ヘテ居リマスガ、斯ウ云フ制度ヲ採ルコト宜イト考ヘテ居リマス以上、成ルベク廣イ方宜イト云フコトハ、政府モ考ヘテ居ルヤウナ次第デアリマス、唯實際問題ト致シマシテ、小サイ法人ニ付キマシテハナカノ税金ノ計算ガ面倒デアアル、今日ノ複雜ナル稅法ノ計算ヲヤリマスコトハ、先

程モ御話ノアリマシタヤウニ、自分ノ會社ノ株主總會ノ決算ニ對スル税金デハアリマスケレドモ、ソレニシテモ色色ノ手數ヲ要シマスノデ、現在ノ經理ハ餘リハツキリト出來テ居ナイ法人ニハ非常ニ無理デハナイカト、斯様ニ考ヘマシテ、一應ハマア遠慮致シタヤウナ次第デアリマスガ、成ルベク廣ク及ス方宜イコトハ各方面カラ見マシテ適當デアルト考ヘラレマスノデ、只今ノ考ヘテ居リマス適用範圍ハ、先程御説明シタ通りデアリマスガ、今後ノ實行其ノ他ヲ見マシテ、又御話ノヤウニ稅務協會ノ指導デアルトカ、商工經濟會等ノ指導ニ依ツテ、是等ノ經理ヲ漸次適正ニシテ行クト云フ方向ト睨ミ合セマシテ、申告納稅制度ノ適用範圍ノ擴大ト云フコトヲ考ヘタイト思フノデアリマス、唯先程申シマシタヤウニ、五百萬圓以上ノ法人ニ適用致スコトニ致シマス、利益金ノ中、會社數ニシマスト約一千餘リノ會社ニナリマスガ、二十萬圓以上ノ法人ガ約一萬一千アリマス、會社數デハ其ノ一割ニ足ラヌモノデアリマスガ、所得金額カラ申シマスト、全法人ノ納稅メス各稅ノ七割五分程度ノモノハ、五百萬圓以上ノ會社ガ納稅テ居ルヤウナ狀態デアリマシテ、サウ云フ方面ノ適用ニナルコトニナリマス、又小法人等ニ付キマシテハ、稅務署ノ調査決定ト云フモノヲ出來ルダケ急イデ、申告納稅制度ヲ採ラズトモ、之ニ近イヤウナ調査決定ヲ迅速ニ致シマシタルコトニ努メタイト思ヒマス、結論ニ於テ、御話ノ成ルベク廣ク適用スルト云フコトハ、全ク同感デゴザイマシテ、出來ルダケサウ云フ風ニ考ヘタイト存ジテ居リマス

○三浦新七君 ソレハ、何トカ之ヲ活

カシテ行ク方法ヲ御考ヘ戴キタイト思ヒマス、先程申シマシタ詰リ税金ノ金高ニ於キマス、大キナモノダケ握レバ、ソレデ宜イノデアリマスガ、ドウモ兌換券ノ在ル場所ニ付テハ、下ノ方ニアルノデ、上ノ大キナ方ニサウ兌換券ハ入ツテ居ナイト思フ、銀行關係デ動イテ居ルノダラウト見テ居ル譯デアリマスガ、其ノ點ヲサウ云フヤウナ方面カラ一ツ考ヘテ戴キタイト云フコトヲ御願ヒシタイ、序ニソレニ附帶シテ先程ノ説明デ、ドウ云フ工合ニナツタノデスカ分ラヌデスガ、營業稅ノ附加稅デスガ、營業稅ノ地方稅トシテ附加セラレルモノ、是ハ方々ニ店ヲ持ツテ居リ、方々デ營業シテ居ルト云フ者ニ付テ、各地方稅ヲ別々ニ町村課課ケルト云フコトノ爲ニ、非常ニ長ク課稅ガ決ラズニ居ル狀態ニアルノデアリマス、ソレガ矢張り斯ウ云フヤウナ方法デ、地方稅ト云フヤウナ場合ニモ此ノ規定ガ適用セラレルト云フ御話デアツタノデスガ、矢張り之ヲ行ケルノデセウカ

○政府委員(田中豐孝) 地方稅ニハ適用致シマセヌ、營業稅ニ付キマシテハ御話ノ如ク附加稅ノ方ハ分割ノ問題ガアリマスノデ、其ノ爲ニ遲レテ、何等カ別ニ方法ヲ講ジナクチャナラヌ問題モアリマスガ、又其ノ分割ノ問題ノ爲ニ、一括シテ會社ガ申告納稅ヲスルト云フヤウナコトガ出來マセヌ、併シ本稅ニ付キマシテハ申告納稅ヲ致シマスガ、附加稅ノ方ハ申告納稅制度ヲ適用致シマセヌ、ソレノ促進ノ方ハ又別ニ會社カラ申告ガアリマシタラ、直チニ附加稅ノ基礎ニナル所得ノ分割ト云フコトヲヤツテ居ルノデアリマスガ、此ノ方面ハ取急イデヤルコトニ致シタイト考ヘテ居リマス

○三浦新七君 ソレカラモウ一ツ、先程ト同ジヤウナ見地ナデスガ、是ハ前々カラ度々問題ニナツタ所デアリマスガ、例ノ新興所得階級ト申シマスカ、詰リ先程列舉シマシタヤウナ階級ヲ對象トシテノ課稅デアリマスガ、是ハドウモ現在ノ狀態ニ於テハ税金ヲ取ツテ見テモ、結局ソレガ雇主、其ノ他ニ轉嫁セラレルト云フコトニ事實ハナルノデハナイカト考ヘルノデアリマス、ソレ等ノ浮動購買力ヲ吸收スルト云フ其ノ手段ニ付テハ、政府デ色々御考ニナツテ居ルヤウニ承ツテ居リマス、昨日大臣カラ條項ダケハ御覽ミ下サツタヤウナ工合ニ聽イタノデアリマスガ、モウ少シ具體的ニドウ云フヤウナ方法デ此ノ方面ニ行フト云フ御計畫デ居ラレルカ、少シ御話ヲ願ヒタイト思ヒマス

○政府委員(田中豐孝) 所謂新興所得階級ニ對スル課稅ノ充實ノ問題デアリマスガ、先般來當委員會ニ於テモ色々御意見ノアリマシタヤウニ、今回ノ稅法ノ改正、是ハ唯舊來ノ稅率ヲ引上ゲテ居ルダケデアリマス、特ニ新興所得階級ニ對スル課稅ト云フコトニ付テ何等考慮サレテ居ナイト云フ御意見モアツタト思ヒマスガ、是ハ大臣モ御説明申上ゲマシタ如ク、所謂新興所得階級ハ今日何モ免稅サレテ居ル譯デハナイノデ、所得ガ捕マレバ今回ノ増稅モ受ケルシ、從來ノ色々ノ課稅モ十分受ケル性質ノモノデアリマシテ、何人ガ如何ナル所得アルト云フコトガ捕マレバ、十分重イ負擔ヲシナケレバナラヌ建前ニ相成ツテ居ルノデアリマス、從ツテ稅法若シハ租稅制度ノ問題デハ一ツモナクテ、主トシテ稅務行政ノ運用ノ問題デアルノデアリマスガ、是ガ

又、ナカ／＼捕提が實ハ困難ノヤウナ問題デアリマス、併シナガラ何ト申シマシテモ、此ノ際新與所得階級ト云フモノヲ捕提スルコトニ努力シマセヌト、増税其ノ他ガ益、負擔ノ不公平ヲ來スト云フ結果ニナリマスノデ、色々課税ノ面ニ於テ之ヲドウ捕マヘルカト云フコトニ付テ研究ヲ致シテ居リマス、唯腹案トシテ考ヘテ居リマススコトハ、先ヅ此ノ新與所得階級ノ調査ヲ全面的ニヤリマス爲ニ、稅務機構ノ強化ヲ圖ル、即チ財務局或ハ稅務署等ニ新與所得階級調査ノ爲ノ專門ノ部課ヲ設ケルト云フコトナノデアリマス、尤モ是ハ非常ニ人手モ要スルコトデモアリマスシ、新シイ官吏ヲ澤山ニ其處ニ探ルト云フヤウナコトハ、今日ノ時局柄許サレマセヌノデ、主トシテ從來ノ稅務署員、從來ノ平常のナ仕事ヲ出來得ル限リ簡便ニ致シマシテ、又ハ法人ノ申告納稅制度等カラモ人ガ浮クト思ヒマスカラ、サウ云ツタ方面ノ人ヲ出來ルダケ動員シテ、其ノ方ニ廻スト云フコト、竝ニ官吏トシテ新シイ人ハ採用出來ナクテモ、囑託トシテ、少シ毛色ノ變ツタ人ヲ囑託トシテ動メテ貰フ、即チ企業整備ノ廢メタ商家ノ人デアルトカ、或ハ又保險會社ノ勸誘ヲシテ居ツタ人トカ、色々各方面ノ經歷ノアル人デ、相當ノ年配ノ人デ勤メルト云フヤウナ人モ、少シハアルヤウニ承ツテ居リマス、サウ云ツタ毛色ノ變ツタ人ヲ事務囑託トシマシテ、サウ云フ方面ニ使ツテ、調査ニ努力致シタイト考ヘテ居リマス、又外部ノ問題ト致シマシテハ、警察デアルトカ、地方事務所デアルトカ、サウ云ツタヤウナ他官廳トノ連絡ヲ緊密ニスルコトハ勿論デアリマシテ、其ノ爲ニ必要ナ謝金デアルト

カ囑託ノ謝金ト云フヤウナモノモ豫算ニ御願ヒシテ居ルノデアリマスガ、其ノ他勞務報國會トカ、產報デアルトカ、農業會デアルトカ、各種ノ統制組合、斯ウ云フ産業團體、斯ウ云フモノト密接ナ連絡ヲ取リマシテ、是等ノ方面ニモソレ／＼適當ナル囑託ヲ委囑致シマシテ、是等ノ方面ト連絡ヲ取ツテヤツテ、其ノ方面カラ組織的ナモノ、例ヘバ自由労働者等デモチヤント組織ヲ持ツテ居ルモノニ對シマシテハ、相當課稅ガ行キ得ルト思フノデアリマスガ、其ノ他ニ、新與所得階級ノ中ニハ組織ヲ持タナイ者ガ相當アリマス、「ブローカー」デアルトカ關行爲ヲスル者、其ノ他色々アルト思ヒマスガ、サウ云フ組織ヲ持タヌ者ハ一番所得ヲ捕提スルコトガ困難デアルト思ヒマスガ、是等ニ對シマシテハ、地域のニ、先程申上ゲマシタノハ職域的のニ、色々囑託ヲ置クノデアリマスガ、地域のニ囑託ヲ置ク、町會トカ部落會トカ隣組ト云ツタヤウナ、出來レバサウ云フ人ヲ囑託ニ致シマシテ、其ノ隣組内ニ税金ガ非常ニ少イト云ツタヤウナ人ハナイカト云フヤウナコトヲ始終連絡ヲ取リマシテ、是ハ密告ト云フヤウナコトニナリマス、統後生活ノ謗謠ヲ害スルコトニナリマスカラ、其處迄至ラヌデ、稅務署ガ時々連絡ヲ致シマシテ、調査ハ稅務署デアラル、唯サウ云フ人ガ居ルト云フコトヲ教ヘテ戴クト云フ程度デアリマスガ、サウ云フ方面ノ租稅方面委員のナモノヲ設置スル、斯ウ云ツタヤウナコトヲ只今考ヘテ居ルノデアリマス、新與所得階級ト申シマシテモ、色々トアルト思ヒマスガ、ソレゾレ專門家ヲ委囑シマシタリ、機構ノ中デ專門のニ分化シマシタリシマシ

テ、出來得ル限リ課稅ノ充實ニ努メタイト思ツテ居ル次第デアリマス
○三浦新七君 其ノコトニ付テハ、是ハ昨日大臣カラノ御話ニモ誅求ハヤラナイト云フ御話デアッタノデアリマスコト、之ヲ實際押サヘテ見テモ、税金ヲ取ツテ見タツテ結局其ノ金ハ外ノ方カラ、雇主カラ轉嫁サレテ貰フヤウナ状態ニ今日ハナツテ居ラウト思ヒマス、ソレカラ又、先程御話ガアツタサウ云フ風ニ多少トモ税金ヲ取ツテ居ツテモ、サ程、所謂「インフレ」ト云フモノニ對シテハ關係ガナイモノダラウ、關係ガ少クテ薄イダラウト思ヒマス、非常ニ我々ノ目ニ立ツテ非常ニ收入ガアルニ拘ラズ、税金ヲ納メテ居ナイト云フコトハ、非常ニ目ニ立ツコトハ目ニ立ツノデアリマスガ、餘リヤカマシク色々組織ヲスルト、又ドウモ一般ノ風ガ人氣ヲ惡クスル、或場合ニ於テハ、結局サウ云フモノガアツテモ、餘リ神經質ニナラズニ眼ヲツブルト云フ位ナ態度ニアルコトガ却テ宜イデヤナイカト云フヤウナ工合ニ考ヘマスコト、御參考迄ニ申上ゲテ置キタイト思ヒマス、モウ一ツソレニ關聯致シマシテ、關聯ハゴザイマセヌガ、二ツバカリ小サナ點ヲ序ニ御質問ヲ申上ゲタイト思ヒマスガ、ソレハ今度ノ、是迄ノ商業組合工業組合ト云フヤウナモノガ統制組合ニ綜合サレマシテ、大抵ノ所デハ縣全體ヲ一括シテ組合ガ出來テ居ルノダラウト思フノデアリマス、サウ云フヤウナ場合ニ其ノ統制組合ノ役員トシテノ、是迄ノ役員トカ工業者ナリガ、工業組合ノ役員トナツタ時ノ報酬、月給、ソレト銘々ガ出資致シテ居リマス出資金ニ對スル配當、是等ノモノニ付テハ是ノ所得トスベキハ當リ前

ノ話デアリマスガ、是迄ノ仕來リニ依リマスト云フ營業稅ヲ課シテ居ルコトニナツテ居ルノデアリマスガ、是ハ是迄ノ任意組合デアリマシタ場合ニ於テハ、此ノ給料ト云フヤウナモノガ結局是迄ノ利益金ノ代リニ給料ヲヤツテ居ルノダト云フヤウナ制度ガアリマシタカラ、之ニ對シテ營業稅ヲ課スルト云フヤウナコトハ、マア説明スベキ理由ガアルト思フノデアリマスケレドモ、統制組合ノ方ガ出來マシタ場合ニ於テハ、之ニ營業稅ヲ課スルト云フコトハ、少シ行キ過ギデナイカ、其處ヲ邊ノ所ハドウ云フ工合ニ御考ニナツテ居ラレカト云フ點ガ一ツ、ソレカラモウ一ツハ、酒ノ販賣所ノコトデアリマスガ、細カイコトヲ申上ゲテ恐縮デアリマスガ、地方ニ依リマシテ、大抵共同販賣所ノ制度ニ依リマシテ生活必需品ヲ販賣シテ居ルノデアリマスガ、サウ云フ場合ニ酒ノ販賣スルト云フ者ガ早ク決ツタモノデアリマスカラ、所謂人口何萬ニ付テ何軒ト云フヤウナ工合ニ決メテアツタモノデアリマス、非常ニソレガ共同販賣所以外ニサウ云フ者ガ出來上ルト云フコトノ結果ニナツテ居リマス、何トカサウ云フヤウナモノヲ一緒ノ所デヤツテ行ケルヤウナ方法ガナイモノデアラウカ、ト云フノハ、是ハ私共ノ方ノ經濟ノ進マナイ所デアリマスガ、配給品デアルトカ若シクハ酒デアルトカ、サウ云フヤウナ物ヲ販賣スルコトニ依ツテ、一家ノ生計ヲ立テルト云フヤウナコトニハ行カナイ狀態ニナツテ居ルノデアリマス、所謂是ハ半農半商ト申シマスガ、サウ云フヤウナ主たる收入ハ外ノ方面カラ取ツテ居ル、斯ウ云フヤウナコトニナツテ居ルノデアリマス、ソレハ收

入ノ點カラ見テ、一軒ガ其ノ收入カラシテ獨立シ得ル爲ニ、何軒ヲ拂ハナケレバナラヌト云フヤウナ、人口何萬ノ區域ヲ決メナケレバナラヌト云スコトニナルト、非常ニ困ツタ問題ガ起ルノデアリマスガ、其ノ事ニ付テ詰リ一旦指定セラレタ販賣店ト云フヤウナモノヲ容易ク改正シ得ルモノデアラウカト云フ點ト、ソレカラ販賣店ノ數ヲドノヤウナ方針デ御決メニナツテ居ルカ、ソレハ小サナ問題デアリマスガ、御伺ヒシタイト思ヒマス
○政府委員(田中豐君) 先程ノ新與所得階級ノ課稅ノ問題、課稅ノ充實ヲ期シタイト云フコトヲ申上ゲタノデスガ、其處ニハ御話ノヤウニ轉嫁ノ問題モアリマスシ、又一面ニハ苛斂誅求ト云フ問題モアルコトハ餘程注意シナケレバナラヌト思ツテ居リマス、唯轉嫁ノ問題等モ、例ヘバ自由労働者ニ屬スル者ニ付キマシテハ、昨年カラ丙種事業所得ヲ課稅致シテ居リマシテ、天引シテ賃金カラ税金ヲ差引イテ居リマスガ、所ニ依リマシテハ、ソレダケノ税金ダケ賃金ガ上ツタト云フヤウナ事例モアルヤウデアリマス、ソレハ全部ガ全部デナク、相當部分ハ轉嫁シテナイ部分デアルト考ヘテ居リマス、又是ハ税金ヲカケタノヲ機會ニ轉嫁ハ致シマシタガ、結局轉嫁スルト云フ以上ハ、勞務者ノ方ガ經濟のニ強イ譯デアリマシテ、自然其處ニ行クベキモノヲ早メタト云フコトニナツテ居ルノデヤナイカト思ヒマスガ、是等ノ點ヲ餘程注意シナケレバナラヌト考ヘテ居ルノデアリマス、自由労働者ノ課稅ニ付キマシテハ、先日大臣ガ申シマシタヤウニ、一應昨年ハ五千萬圓程度ノ收入豫想デアリマシタノガ、實績ニ於キマシテハ一億ヲ越

エルヤウナ狀況デアリマス、又更ニ、本年度ハ増税ト共ニ併セテ一億七千萬程度ノ収入ヲ見込シテ居ルヤウナ譯デアリマシテ、轉嫁ノ問題モアリマスガ、相當ニ課税ハ本年ハ更ニ充實シ得ルモノト考ヘテ居ルヤウナ次第デアリマス、尙新與所得階級ノ課税ノ充實ヲ期シテ、其處ニ苛斂誅求ノ問題ト考ヘマスル點デアリマスガ、是ハ私共非常ニ心配致シテ居ルノデアリマシテ、ドウモハツキリト、新與所得階級ト云フヤウナ歴然トシテ居ルモノ、是等ニハ宜イノデアリマスガ、同業態デモサウ云ツタヤウナ儲ケテ居ル者ト、サウデナイ者ガアツテ、其處ヲ一律ニ關ラシテ居ル者ト見テ課税スルコトデアリマシテハ不適當ナノデアリマス、ソレ等ノ點ハ餘程慎重ニ行キタイト思フノデアリマス、尙新與所得階級、三浦委員ノ其處ヲアル通貨ヲ背負ツテ居ル階級ハ、「インフレ」ノ面カラ見テ、ソレ程デモナイト云フ御説明モアリマシテ、新與所得階級ニハ我々力ヲ注グタイト思ツテ居リマスノハ、先程御話ニアリマシタヤウニ資本金二十萬圓以下ノ所謂下請工場協力工場、或ハ土木建築請負業ト云ツタヤウナモノガ、個人トシテハ相當大キナ、會社トシテハ小サイ、斯ウ云ツタモノニ主力ヲ注グベキモノト考ヘテ居リマス、ソレカラ後段御尋ノ統制組合ニナリマシテ、營業ヲ廢止シテ其處カラ給料ヲ受取ル、或ハ出資金ノ配當ヲ受取ル、是等ニ對シテ營業稅ヲ課税スルコト云フ問題ナノデアリマスガ、是ハ總テソレ等ノ出資者若シハ其處ノ組合ノ役員使用人トシテ働イテ居ルト云フノデアリマスカラ、給料本來ハ配當トカ或ハ給料ト云フコトニナツテ居リマスガ、飽ク迄モ

是ハ營業者タル地位ヲ以テ現在モ勤メテ居ルト云フヤウナ狀態デアリマシテ、從ツテ營業稅ヲ課税シナケレバナラヌト云フコトデ參ツテ居ルノデアリマスガ、個々ノ狀態ヲ調ベテ見マス、中ニハ非常ナ不合理ナモノモアルカト思ヒマス、發足ハ或ハ斯ウシタヤウナコトカラ參ツテ居リマシテモ、日ガ經ツト共ニ營業稅ヲ課スルコトガ不合理ナ場合モアラウカト思ヒマス、是等ノ事態ニ付キマシテハ、能ク調査ヲ致シマシテ營業稅ヲ課スルコトニ致シマスコトニ付テ、其ノ適否ヲ考慮致シタイト思ヒマス、酒ノ販賣所ノ問題デアリマスガ、是ハ大體企業整備ノ一ツト致シマシテ、酒ノ販賣所モ相當整理致シマシテ、其ノ整理ハ概ネ販賣業者ノ組合ガ自治的ニ案ヲ立テマシテ整理致シタノデアリマス、大體ニ於テ東京等ニ於キマシテハ、一軒ノ酒ノ販賣所ガ世帯ヲ三百持ツトカ四百持ツトカ、ソレデ大體ヤツテ行ケル、或ハ酒ノミノ販賣ト云フコトヲ考ヘナイデ味噌醬油モ合セテ販賣スルコト云フコトモ考慮致シマシテ、ドノ位アレバヤツテ行ケルカト云フコトヲ考慮致シマシテ整備ヲ致シタノデアリマス、併シナガラ農林等デハ御話ノアツタ半商半農ト申シマスガ、ソレノミニ依ツテ生計ヲ立テテ働クモノナシ、モウ少シ澤山置イテモ宜イコト云フ問題モアラウト思ヒマスガ、是等ハ其ノ地方々々ノ狀況ニ應ジマシテ、其ノ業者ノ存スル組合ニ於テ自治的ニアルコトニナツテ居リマシテ、一應其ノ整備ハ終ツテ居ルノデアリマスガ、更ニ二段三段ノ整備ヲ今後致シタイト考ヘテ居リマスガ、其ノ方針ハ飽ク迄モ其ノ業者ノ集リデ、其ノ地方々々ニ適スルヤウニ決メテ戴

キタイト考ヘテ居ルヤウナ次第デアリマス

○委員長(伯爵林博太郎君) 此ノ邊デ休憩致シマシテ、午後一時開會致シマス

午前十一時五十六分休憩

午後一時九分開會

○委員長(伯爵林博太郎君) ソレデハ、午後ノ會議ヲ始メマス

○橋本辰二郎君 私ハ午前中、改正法案ノ各條ニ關シテ御質問ニ關聯致シマシテ、少シク御尋ネ致シタイト思ヒマス、第八條トソレカラ第十六條、此ノ關係デアリマスルガ、第八條ハ多分是ハ會社ガ自己ノ株式ヲ買收シテ消却シタ場合ニ適用スルモノデアルカノヤウニ思ヒマスルガ、此ノ第十六條デシタカ、清算所得ハ、是ハ會社ガ解散シタ場合ノミデアリマスガ、又第八條ハ先程申シマシタヤウニ、會社ガ自己ノ株式ヲ一部分買入レテ消却シタ場合デアリマスルカ

○政府委員(田中豐若) 所得稅法ノ第八條ヲ新シク改正致シマス方ハ、御話ノ通り、株式ノ消却ノ場合デアリマス、會社ガ自己ノ株式ヲ買入レテ消却致スト云フヤウナ場合モ含ミマス、ソレカラ法人稅法ノ清算所得ノ方ハ移シマシタ分ガ、會社ガ解散シタ場合ト合併ニ依ツテ消滅シタ場合ト、兩方含ミマス

○橋本辰二郎君 會社ガ合併迄ニ至ラズシテ、其ノ株式ノ大部分ヲ或會社ニ讓渡致シマシテ、サウシテ相當ナル金額ヲ殘存會社ヨリ受取リマシテ、ソレヲ株主ニ分配シタル場合ニハ、ドウ云フコトニナリマスカ

○政府委員(田中豐若) 會社ガ株式ノ大部分ヲ讓渡シテト云フ御質問デゴザイマスガ、其ノ會社自己ノ株式ヲ讓渡スルヤウニ持ツテ居ル管ハナイ譯デゴザイマス、デスカ其ノ會社ノ、同族會社等ノヤウナ場合ニ於キマシテ、或會社ノ株式大部分ヲ持ツテ居ル第三者、會社以外ノ者ガ、其ノ會社ノ株式大部分他ノ會社ニ讓渡シタト云フヤウナ場合ニ於キマシテハ、別ニ此ノ清算所得、ソレカラ株式ノ消却ト云フ、此ノ規定ニハ何等關係ゴザイマセズ

○橋本辰二郎君 私ノ今御尋ネシタノハ、是ハ表面的ニハサウ云フコトニナリマスガ、實際ニ於テ、其ノ會社ノ株式ノ八割ナラ入割ヲ他ノ會社ニ讓渡スルト云フコトデ、株主間ノ了解ヲ得マシテ、サウシテ之ヲ他ノ會社ニ讓渡シ、其ノ讓渡シタモノニ對シテ、相當ナ矢張り株式ニ超過スルダケノ金ヲ受取ツテ、之ヲ一般株主ニ分配スル、此ノ場合ニハ、是ハ看做配當トシテ課税セラレルノデスカ

○政府委員(田中豐若) 實際ノ問題トシマシテハ、御話ノヤウナ場合ガ實際ノ經濟關係トシテハアリマセウト思ヒマスガ、會社ガ自己ノ株式ヲ所有シテ居ナイ以上、其ノ實際問題トシテ讓渡シタト云フ大部分ノ株ハ、誰カ第三者ノ所有名義ニ相成ツテ居ル譯デアリマシテ、從ツテソレヲ賣リマシタ代金ト云フモノハ會社ノ收入ニ、マア形式上ノ問題ニナリマスガ、少クモ收入ニハ入ツテ來ナイ、株式ノ所有者デアツタ他ノ第三者ノ所ヘ入ツテ參リマスノデ、ソレヲ又株主ニ分配スルト云ツタヤウナ問題ハ生ジナイカト考ヘテ居リマスガ

○橋本辰二郎君 今ノ問題ハ、實際往住アリ得ルコトデアリマスルケレド

大部分ヲ讓渡シテト云フ御質問デゴザイマスガ、其ノ會社自己ノ株式ヲ讓渡スルヤウニ持ツテ居ル管ハナイ譯デゴザイマス、デスカ其ノ會社ノ、同族會社等ノヤウナ場合ニ於キマシテ、或會社ノ株式大部分ヲ持ツテ居ル第三者、會社以外ノ者ガ、其ノ會社ノ株式大部分他ノ會社ニ讓渡シタト云フヤウナ場合ニ於キマシテハ、別ニ此ノ清算所得、ソレカラ株式ノ消却ト云フ、此ノ規定ニハ何等關係ゴザイマセズ

○橋本辰二郎君 私ノ今御尋ネシタノハ、是ハ表面的ニハサウ云フコトニナリマスガ、實際ニ於テ、其ノ會社ノ株式ノ八割ナラ入割ヲ他ノ會社ニ讓渡スルト云フコトデ、株主間ノ了解ヲ得マシテ、サウシテ之ヲ他ノ會社ニ讓渡シ、其ノ讓渡シタモノニ對シテ、相當ナ矢張り株式ニ超過スルダケノ金ヲ受取ツテ、之ヲ一般株主ニ分配スル、此ノ場合ニハ、是ハ看做配當トシテ課税セラレルノデスカ

○政府委員(田中豐若) 實際ノ問題トシマシテハ、御話ノヤウナ場合ガ實際ノ經濟關係トシテハアリマセウト思ヒマスガ、會社ガ自己ノ株式ヲ所有シテ居ナイ以上、其ノ實際問題トシテ讓渡シタト云フ大部分ノ株ハ、誰カ第三者ノ所有名義ニ相成ツテ居ル譯デアリマシテ、從ツテソレヲ賣リマシタ代金ト云フモノハ會社ノ收入ニ、マア形式上ノ問題ニナリマスガ、少クモ收入ニハ入ツテ來ナイ、株式ノ所有者デアツタ他ノ第三者ノ所ヘ入ツテ參リマスノデ、ソレヲ又株主ニ分配スルト云ツタヤウナ問題ハ生ジナイカト考ヘテ居リマスガ

○橋本辰二郎君 今ノ問題ハ、實際往住アリ得ルコトデアリマスルケレド

モ、形式ニ於テハ只今政府委員ノ御答辯ノヤウナコトニナルノデアリマス、次ニ私ハ投資信託ノ利益ニ付キマシテ御尋ネシタイノデスカ、其ノ投資信託ト云フノハ、近頃貯蓄ノ意味ニ於テノ投資信託ト云フモノヲ各證券會社ガ各方面ニ頻リト勧誘致シテ居リマスルガ、アレヲ指スノデアリマスガ、其ノ外ニマダ投資信託ナドガアルノデスカ

○政府委員(田中豐若) 證券會社等ガヤツテ居リマスアノ投資信託デゴザイマス

○橋本辰二郎君 投資會社ノ勧誘致シマスル投資信託ニ付テハ、課税ハ非課税ト云フコトヲ以テ勧誘シテ居ルヤウデアリマスガ、サウデナイノデゴザイマスカ

○政府委員(田中豐若) 國民貯蓄組合ノ斡旋ニ依ル色々投資、貯蓄等ガ、一萬圓ヲ限ツテ免稅ニナツテ居リマス、是ハ國民貯蓄組合ノ規定ニ依ツテ免稅ニナツテ居リマスガ、此ノ投資物件ノ中ニ、貯蓄ノ方法ノ一ツトシテ投資信託ガ入ツテ居リマス、從ツテ證券會社等デ投資信託ヲ結成致シマシテ、其ノ投資信託ノ買入者ヲ以テ國民貯蓄組合ヲ結成致シマシタ場合ニハ、一萬圓迄ハ非課税ト云フコトニナリマスノデ、サウ云フ方法ヲ採ツテ居ル場合ニ於テ非課税ナノデゴザイマス

○橋本辰二郎君 所得稅ノ納期ヲ四回ヲ二回ニ改メラレマシタガ、之ニ依リマシテ、六月ニ徵收スルモノハ八月ト云フコトニナリマス、此ノ二箇月間ニ於キマシテ、國庫ニ於ケル所ノ支拂等ニ支障ヲ生ズルヤウナ、詰リ收入ノ延滞ヨリシテ支拂等ニ支障ヲ生ズルヤウナコトハ起リナイノデスカ

○政府委員(田中豐君) 御説ノ通り少

シ運レル、殊ニ所得稅ノ第一期分ヲ遅
レコトニナリマスガ、全體ノ國庫收
入カラ見マシテ、又御承知ノヤウニ最
近ハ、毎月數十億ノ國債ニ依ツテ國庫
ノ支拂ヲ致シテ居ルヤウナ狀況デモゴ
ザイマスノデ、此ノ程度ノコトデハ國
庫ノ金繰リ上、別ニ支障ハナイ、斯ウ
云フヤウニ考ヘテ居リマス

○橋本辰二郎君 同ジク之ニ、モウ少

シ關聯致シマスルガ、當年ハ所得稅ノ
申告ヲ一月中ニシロト云フコトニナツ
テ居リマス、從來三月十五日迄ニスレ
バ宜カッタモノヲ、一月ニシロト云フ
コトニナツテ居リマスルガ、又三月十
五日ニモ其ノ後ノモノヲ追加シテ届
ケロ、斯ウ云フヤウナ御取扱ニナツテ
居ルヤウニ聞キマスガ、是ナシカハ總
テノモノヲ簡素化スルコト云フ御趣意ニ
反スルヤウデアリマスルシ、又ハ書類
モ澤山要リマシテ、却テ面倒ト思ヒマ
スガ、ドウ云フ譯デコナ御取計ニナ
ツタノデスカ

○政府委員(田中豐君) 御指摘ノ通り

此ノ點ハ餘リ簡素化ニナラナイノデア
リマス、從來三月十五日迄ノ期限トシ
テ居リマシタ申告ヲ昨年、一月三十一
日ト云フコトニ期限ヲ變更致シマシ
タ、此ノ理由ハ段々ト課稅物件モ多ク
ナリマスシ、課稅關係ガ複雑ニナル、
一方ハ稅務關係ノ方ノ人員ノ不足、素
質ノ低下ト云フヤウナ問題ガアリマシ
テ、所得稅營業稅等ノ之ガ決定ニ期間
ヲ相當要スルコト云フヤウナ趣旨カラ、
申告ヲ早く出シテ戴イテ、サウシテ又
昨年ノ改正ニ於キマシテハ決定ノ期間
ヲ一月ダケ繰リ上ゲマシテ、從來ノ五
月三十一日、五月末ヲ四月末ト云フヤ
ウニ、一月ダケ繰リ上ゲテ、ソレニ伴

ヒマシテ調査期間モ延長シナケレバナ
ラヌト云フ趣旨デ、申告ヲ一月三十一
日ト云フコトニ改正致サレタノデアリ
マス、併シナガラ御承知ノヤウニ株式
ノ配當ニ關シマシテハ、毎年ノ課稅ノ
基礎ガ、他ノ所得ハ前年ノ一月一日カ
ラ十二月末迄ト云フコトニナツテ居ル
ニモ拘ラズ、株式ニ付テハ、三月一日
カラ二月迄ノ配當金ニ對シテ其ノ年ニ
課稅スル、斯ウ云フコトニナツテ居リ
マスシテ、先程申シタヤウニ一般ノナ理
由カラ、全體ノ二月三十一日トハ致
シマシタガ、株式ノ配當ダケニ付キマ
シテ、殊ニ其ノ中ノ、其ノ年ノ一月カ
ラ二月末迄ニ受取ツタ配當ニ付キマシ
テハ、モウ一度三月ニ申告ヲ出シテ戴
ク、斯ウ云フコトニ相成ツテ居ルノデ
アリマス、御指摘ノヤウニ、申告ヲ物
ニ依ツテハ一部分デアリマスガ、二度
出サヌナラヌ場合ガアリマスノデ、是
ハ是非改正ヲ致シタイト考ヘルノデア
リマスルガ、其ノ爲ニハドウシテモ現
在ノ稅務署ノ人員、調査ノ實情等カラ申
シマシテ、申告期限ヲ後ニ、又前ノヤ
ウニ三月十五日ニ返スト云フコトハ到
底出來マセヌ、從ツテ此ノ株式ノ配當
ノ計算期間ト云フモノヲ修正スルコト
ニ依ツテ、是ガ直ルト考ヘラル、ノデ
アリマスルガ、何分ニモ此ノ配當ノ所
得ヲ今日直チニ一月カラ十二月ト云フ
計算期間ニ直シマスコトハ、一年分、
或ハ一年ダケデアリマスガ、一月カラ
二月迄ノ配當期間ニ對シテ、課稅ガ一
年抜ケルト云フヤウナ恰好ニナリマシ
テ、此ノ期間ニ配當スル會社ハ相當ニ
大會社ナドガアリマシテ、相當ノ多額
ノ所得者ノ税金ガ、其ノ一年ダケ非常
ニ輕減セラレト云フヤウナ結果ヲ招來
致シマスルノデ、其處迄ノ改正ガ今日

迄出來ナイデ居ル、此ノ結果、只今御
指摘ノヤウナ極ク一部ノ株式ニ付キマ
シテハ二重ノ申告ヲシテ戴カネバナラヌト
云フヤウナ狀態ガ殘ツテ居ル狀態デア
リマス、將來何等カノ方法デ之ヲ改正
致シタイト考ヘテ居ルヤウナ次第デア
リマス

○橋本辰二郎君 只今ノ御説明ノヤウ

ナ御話ヲ前年モ承ツタコトガアリマ
ス、私ハ第三種所得ニ付キマシテハ、
是ハ曆年度ニ改メタ方ガ良クハナイカ
ト云フコトヲ申上ゲタ、サウスルト、是
ハ十二月ノ年末ト云フコトハ、皆國民
ノ頭ニ能ク記憶ヲ喚ビ起ス、ソレカラ
經過シテ一月二月ト云フコトニナル
ト云フト、成ハドウモ全ク忘れルコト
ガアツテ、申告洩レガ自然起ルヤウナ
コトガアルカモ知レナイ、或ハ又、怠
ルカモ知レナイ、寧ろ是ハ曆年度ニ、或
ハ十二月ニシタ方ガ宜イノヂヤナイカ
ト云フコトヲ申上ゲタ、處ガ只今政府
委員ノ御説明ノヤウナ御辯解ガアツ
タ、處ガデスカ、此ノ所得稅ノ六月ノ
納期ヲ八月三十一日迄二箇月間延期シ
テモデスカ、相當支障ガナイトスレ
バ、只今ノ一月二月ノ間ノ法人ノ所得
ヲ翌年度ニ延バスト云フコトハ、非常
ニ國庫ノ收支上支障ヲ生ズルコト云フ
トニハナラヌヤウニ思ヒマスガ、一
層、ソレハ何デスカ、率直ニ一ツ、ソ
レナコトハ改メヨウト云フコトヲ仰シ
ヤツテハ如何デスカ

○政府委員(田中豐君) 國庫ノ收入ノ

點カラ申シマシテ、サウ云フ風ニ改メ
マシタ場合ノ減收額ト云フモノハ、今
日ノ全體ノ收入カラ見レバ、大シタ問
題ハナイトモ言ヘルカモ知レマセヌ、
唯御指摘ノヤウナ納期ヲ延バスノハ、
唯二箇月税金ガ遅レテ入ルト云フ問題

デアリマスガ、配當ノ計算期間ヲ變ヘ
マスコトハ、ソレダケ全ク入ラナクナ
ル、或一箇年ニ於テハ全クソレダケ入
ラナクナルト云フコトガ大キナ違ヒデ
アルト思ヒマス、更ニ國庫ノ收入ノ點
ヲ離レマシテ、相當多額ノ納稅者、極
ク大キナ納稅者ガ此ノ増稅ノ際ニ減稅
ニナル、斯ウ云フ事象ヲ生ジマスノ
デ、此ノ事ハ一般ニ増稅ヲスルヤウナ
際ニ行フコトハ如何デアラウカト云フ
點ノ方ガ、多ク顧慮セラレテ居ルヤウ
ナ次第デゴザイマス

○橋本辰二郎君 此ノ法文中ニ於テ、

命令ヲ以テ之ヲ定ムルト云フコトガ太
部アルヤウデスカ、此ノ命令事項ハ、
參考書類ノ中ニ入ツテ居ルノデアリマ
スカ

○政府委員(田中豐君) 提出致シタ管

デゴザイマス
○橋本辰二郎君 サウデスカ、ソレカ
ラ是ハ一例デアリマスガ、洋式旅館ハ
命令ヲ以テ之ヲ定ムル、是モ入ツテ居
ル譯デアリマスガ

○政府委員(田中豐君) 左様デゴザイ

マス
○橋本辰二郎君 第一條ノ二十二「昭
和二十一年分ノ讓渡利得ニ限リ當該讓
渡ニ因リ生ズル利得金額ヨリ其ノ十分
ノ三ニ相當スル金額ヲ控除シタル金額ニ
依リ臨時利得稅ヲ賦課ス」ト書イテア
リマスガ、昭和十八年乃至二十一年ト
云フコトニナツテ居リマスガ、是ハ此
ノ期間ダケニ限ツテノ特典デアリマス
ルカ、又其ノ特典ヲ與ヘラレマシタル
理由ハ何處ニアリノデアリマスガ
○政府委員(田中豐君) 臨時租稅措置
法ノ第一條ノ二十二「御質問デゴザイ
マスガ、此ノ規定ハ、「法令、法令ニ
基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ幹

旋」等ニ依リマシテ、企業整備、「其ノ
他命令ヲ以テ定ムル事由、此ノ命令
ハ防空ノ爲ノ疎開デアリマス」トカ、或
ハ土地ヲ軍公用ニ提供讓渡シタル場合
ト云フヤウナコトヲ規定シテ居ルノデ
アリマスガ、左様ナコトノ爲ニ不動產
ノ讓渡等ガアリマシタノハ、是ハ相當
輕減スベキデアルト云フヤウナ趣旨ガ
ラ、斯ウ云フ規定ガ設ケラレテ居ルノ
デアリマス、唯其ノヤリ方ト致シマシ
テ、總テノ企業整備トカ一定ノ期限ヲ
限ツテ、イッ迄ニ是ダケノ整備ヲヤ
ル、イッ迄ニ是ダケノ疎開ヲヤルト云
フヤウナコトヲ行ハレテ居リマスノト
照應シテ、租稅上ノ輕減モサウ云フ疎
開トカ讓渡ガ行ハレマスノガ、昭和二十
年十二月三十一日、今年ノ年末迄三行ハ
レタモノニ付テ輕減ヲ致スコトニナツ
テ居リマスカラ、從ツテ輕減モ、本年
内ニ行ハレタ疎開ニ付テ輕減ハ、明
年度ニ讓渡利得稅ノ課稅スルコトニナ
リマスノデ、明年ノ二十一年度分ノ讓渡
利得ニ付テハ輕減スル、斯ウ云フ風
ニ、一年ゾツ區切ツテ規定スルヤウニ
從來ナツテ居ルノデアリマス、唯先程
モ御説明シマシタヤウニ、サウ云フ風
ニ昨年モ、昨年限リト云フコトニナツ
テ居リマシタノラ、本年改正ノ際ニマ
ダモウ一年全部延シテ居リマスガ、一
年ゾツ區切ツテヤツテ居ルヤウナコト
ニナツテ居リマス

○橋本辰二郎君 是ハ一年限リト云フ

コトデアリマスルガ、今後モ此ノ例ニ
依ツテ繼續スルノ御意思ガアルカドウ
カト云フコトヲ承リタイノデアリマス
ス、又船舶及砂鐵業等ニ對シマシテ、
特ニ恩典ヲ設ケラレマシタル理由ハ何
處ニアリノデアリマスガ

○政府委員(田中豐君) 將來此ノ輕減

處ニアリノデアリマスガ

ヲ繼續スルカドウカト云フコトニ付キ
マシテハ、其ノ實體アリマス所ノ
企業整備ノ必要トカ疎開トカ云フヤウ
ナモノ、是等ヲ租税ノ輕減ニ依ツテ獎
勵シテ行クベキデアリカドウカト云フ
コトハ、情勢如何ニ依ツテ決マルコトデ
アルト思ヒマス、從ツテ今日ノヤウナ
情勢ガ尙繼續シマスレバ、又一年延
期ト云フコトハ當然考慮セラレルコト
ト思フデアリマス、此ノ讓渡利得ノ
中ニ、船舶ヲ入レタノデアリマスガ、
之ヲ企業整備其ノ他ノ必要上、船舶ヲ
他ノ讓渡セシメルトカ、或ハ又軍其ノ
他ノ公共ノ施設ノ利用ニ供スルト云ツ
タヤウナ場合モアラウカト豫想サレマ
シテ、其ノ制定當時カラ船舶モ入ツテ
居ルヤウナ次第デアリマス

○橋本辰二郎君 鑛業若シクハ砂鑛業
ハ如何デスカ
○政府委員(田中豐君) 鑛業若シクハ
砂鑛業等ニ付キマシテモ、斯ウ云フ事
業ヲ營ム會社其他ノ企業整備等ノ必要
カラ規定致シタモデアリマス
○橋本辰二郎君 砂鑛業ニ對シ
マスル質問ハ之ヲ終リタイト思ヒマス
ガ、尙外ノ問題ニ付キマシテハ、其ノ
場合ニ於テ御質問致シタイト思ヒマス
○竹下豐次君 昨日内田委員カラ小作
料ニ關スル課税ノ問題ニ付テ御質問ガ
アリマシテ、之ニ對シテ主税局長カラ
無理ノ行カナイヤウニ善處スルト云フ
御答辯ヲ承ツタデアリマシテ、誠ニ結
構ダト思ツテ居リマスガ、唯、今迄ノ
稅務署ニ於ケル取扱振リガ隨分長イ間
繼續サレテ居ルコトデアリマシテ、サ
ウ云フ點カラ考ヘマス、此處デ局長
ガ昨日ノヤウナ御答辯ヲサツタダケ
デハ、ナカ／＼實際稅務署ニ於ケル取
扱振リヲ改メルト云フコトハ出來ナイ

ノデハナイカ、斯様ニ想像サレル譯デ
アリマス、若シ出來マスナラバ、本省
ノ方カラ其ノ取扱振リニ付テノ指示ミ
タヤウナモノデモ、稅務署ニ御出シ下サ
ルト云フコトニナリマシタナラバ、改
メテ行クノデハナイカ、斯様ニ考ヘテ
居ルノデゴザイマスガ、其ノ點如何デ
ゴザイマセウカ
○政府委員(田中豐君) 斯ウ云フ風ニ
致シタイト考ヘマシタコトハ、徹底致
スヤウニ處置ヲ執ル積リデ居リマス
○竹下豐次君 ソレカラ小作料ヲ、小
作人ト地主トノ間ニ約束シテ免ジテヤ
ツタ、或ハ減ジテヤツタト云フヤウナ
場合ニ、ソレヲ稅務署ニ對シテ地主ノ
方カラ證明スルト云フコトガ必要デア
ラウト思ヒマスガ、一々總テノ小作人
ニ付テ各個ニ調ベテ届ケテ行クト云フ
コトモ、之モ大變面倒デアリマスル
シ、稅務署ノ方ノ立場カラ見テモ、チ
ヨット大煩瑣ヲ見ルダケデ、信用ノ出
來ナイ部面モ御アリダラウト云フ風ニ
想像サレルノデアリマス、處ガ今日ノ
實際ノ米ノ取扱方ト云フモノハ、御存
ジノ通り全部農業會ノ倉庫ニ入ツテ居
ルノデアリマシテ、何ノ某ト云フ地主
ノ所ニハドレダケス米ガ入ツタカト云
フコトハ、農業會デ皆分ル譯ナノデ
ス、デ農業會ノ調ベテ利用シテ調査サ
レマシタナラバ、兩方共便利デハナイ
カ、言換ヘテ見マシタコト云フト、地主
ノ方デ農業會ノ證明デモ貰ツテ、一括
シテ稅務署ノ方ニ届ケ出ル、稅務署ノ方
デハ、農業會ノ其ノ證明ヲ信用サレ
テ、ソレヲ基準トシテ課税サレルト云
フコトニシタラ、大變便利デハナイカ
ト思ツテ居リマスガ、ソナナコトハ出
來ナイモノデゴザイマセウカ

○政府委員(田中豐君) 只今御尋ノ小
作料減免ノ問題バカリデナク、今日農
家ノ色々ナ所得ヲ決定シマス爲ニ、
農業會ニ御願ヒスルコトハ非常ニ多イ
ノデアリマス、大體ノコトハ農業會ニ
御尋シテ分ルヤウナコトニナツテ居リ
マスノデ、農業會等ノ御調査ヲ基礎ト
シテ課税ニ用ヒテ居ルコトハ非常ニ澤
山アリマス、只今ノ御指摘ノヤウナ點
ニ付キマシテモ、或地主ガ全部收納セ
ラレタ小作料ノ總體ハ、或ハ分ルカモ
知レマセヌガ、具體的ナ或人ニ減免シ
タト云フヤウナ事實ハ、其處デハ分ラ
ナイカモ知レマセヌガ、兎ニ角農業會
ト云フヤウナモノニハ課税ノ十分協力
シテ戴イテ、課税ノ資料ヲ得タイト考
ヘテ居リマス

○竹下豐次君 其ノ點デスガ、實際ノ
取扱振リヲ見テ居リマスルコト、云フト是
ハ稅務署ニモ依ルコトデモアリマスル
レドモ、署長ノ頭ニ依ツテ、ソレハ
違フコトデハアリマセウガ、今ノ御趣
旨ガ能ク徹底シテナイ所モアルノデハ
ナイカト云フヤウニ思ハレマスノデ、
特ニ其ノ點ヲ御留意願ヒタイト思ツテ
居リマス、ソレカラ昨日私ガ大臣ニ御
尋ネ致シマシタ中ニ、中産階級ノ者ガ
貯金ノ割合ノ多イ爲ニ苦シンデ、借金
シテ居ル者迄モアルト云フコトヲ申シタ
ノデアリマス、其ノ外一般ニ付キマシ
マシテ、大臣カラ色々細カク御説明ガアリ
マシテ、大體了承シタノデアリマス
ガ、チヨット是ハ私ノ感ジガ間違ツタ
ノカモ知レマセヌケレドモ、大臣ノ御
答ノ中デ、マア借金ヲスル者モアルダ
ラウケレドモ、是ハ極メテ少數ノ例外
ノ者デアラウラウト云フヤウナ風ノコ
トヲ頭ニ持ツテ御答ニナツタヤウナ感
ジガシタノデアリマス、成程サウ澤
山、半分モアル譯デハ固ヨリナイノデ

アリマスケレドモ、少數ト云ヘバ少數
デアリマスガ、極メテ少イ、例外的ナ
者デアルトシテ餘リ輕ク見ル問題デハ
ナカラマス、斯様ニ私ハ考ヘテ居ル次第
デアリマス、或ハ私ノ感ジ方違ツタ
ノカモ知レマセヌガ、若シ大臣ノ頭
ニ、サウ云フ風ナコトガアリマシタ
ナラバ、甚ダ困ルト思ヒマスノデ、何
時カノ機會ニ、大臣ニ私ノ今申シマシ
タコトヲ御傳ヘラ願ヒタイト思ツテ居
リマス

○政府委員(田中豐君) 大臣ニハ能ク
申シ傳ヘマス、唯此ノ前、私モ承ツテ
居ツタノデアリマスガ、大體ニ於テ稅
金ハ上リ貯蓄ノ割合モ強化セラレ、其
ノ爲ニ特ニ中産階級、或ハ低額所得者
階級等ガ段々苦シクナルト云フヤウナ
問題ニ付キマシテ、税金ノ今度ノ引上
ニ付キマシテハ、先日モ他ノ委員ニモ
御答辯致シタノデスガ、此ノ程度ノ引
上ハ僅カナ負擔ノ増加デアリマシテ、
戰時下ノ國民トシテ、此ノ程度ノモノ
ハ已ムヲ得ザルモノトシテ我慢シテ戴
キタイト云フヤウニ考ヘテ居ルト云フ
コトヲ申上ゲタノデアリマスガ、貯蓄
ノ割合ニ付キマシテモ、大臣カラモ申
シマシタヤウニ必ズシモ割合ガ適正ニ
行ハレテ居ナイ、其ノ爲ニ色々摩擦
ガアリ困難モ増シテ居ルト云フヤウナ
情勢ガ今日アルノデアリマス、ソレニ
鑑ミマシテ色々貯蓄ノ割合方法ニ關
スル改正ト云フコトヲ、中央ニ於キマ
シテモ委員會ヲ設ケテ色々研究シ、又
地方ノ、實際ニ割合ヲ致シマス機關ニ
於キマシテモ、委員會等ヲ設ケテ其ノ
適宜ヲ期シ、又不滿ノアル人ハ、其處
ヘ申出テ訴ヘラ聽クト云フヤウナ改善
方策ヲ講ジテ居ル譯デアリマシテ、借
金シテ貯蓄ヲスルヤウナ例ハ、例外デ

アラウト云フヤウニ、大臣モ受取ラレ
タ譯デハナイト思ヒマス、御趣旨ノア
ル點ハ能ク申シ傳ヘテ置キマス
○竹下豐次君 此ノ割合ノコトニ付キ
マシテ御研究中デアルト云フ譯デ、今
度ハ立派ナ割合ガ出來ルコトダラウト
思ツテ居リマスガ、現在實ニ酷イ不權
衡ノ實際ヲ私見マシタノデ、是ハ御參
考ノ爲ニ申上ゲタイガ、ドウ云フ譯デ
斯ウ云フ風ナコトガ出來テ來ルノカ、
其ノ點ヲ御伺ヒシタイト思フノデアリ
マスガ、具體的ノコトヲ申シマスル
ト、甲ノ縣ノ「シ」ト云フ町ト乙ノ
縣ノ「デ」ト云フ町ト丁度隣接シ
テ居ル、其ノ隣接シテ居ル町ガ、大體
實力ニ於テ餘リ違ヒナイ二ツノ町デ
アル、其ノ場合ニ貯蓄ノ割合ガ、公債
ノ割合モ含ンデ居ルノデアリマスル
ガ、二ツノ町ガ一ト三ト云フヤウナ割
合ニ一戸ヅ、ノ割合價格ガ違ツテ居
ル、斯ウ云フモノガアルノデス、餘リ
ニ酷イ實例デアリマスルノデ、何カ問
違ヒノ爲ニ、ソナナコトガ起ツテ居ル
ノカモ知レナイト思ツテ居リマスケレ
ドモ、各縣ニ依ツテソナナニ標準ガ違
ツテ居ルモノカ、ソレハマア實際ドノ
位實力ガ違フモノカ、一々調査モシテ
居リマセヌケレドモ、大體地方ノ者カ
ラ見マスルコト云フト、地方ノ狀況ハ見
當ガ附クノデアリマス、實力ニ於テサ
程ノ開キハナイ等ダト思ツテ居リマ
ス、ハツキリシタ數字モ實ハ調ベテ置
キタイト思ツテ居リマシタケレドモ、
其處迄實ハ手ガ届キマセヌ、其ノコト
ハ町ノ當局ノ首腦部カラ直接聽キマシ
タコトデ、間違ヒハナイダラウト思ツ
テ居リマスガ、ドウ云フ風デ、サウ云
フ風ナコトニナルノデゴザイマセウ

○國務大臣(石渡莊太郎君) 只今ノヤ

ウナコトハ、事實アチテコナリニ起ツテ居ルカト存ジマス、結局今日迄ヤリ來ツタコト云フモノハ、昨日モ申上ガタカト思フノデアリマスガ、税金デアルナラバハ格別デアリマスガ、貯蓄ト云フモノハ即チ本人ノ財産ニナツテ居ルノデアリカラ、多少ノ凹凸ガアツテモ、サウ大シタコトデハナイト云フ考ヘ方カラシテ出發致シテ居ツタト思フノデアリマス、ソレガ漸次税モ重クナツテ來ル、貯蓄モ餘計ニナツテ來ルト云フモノデスカラ、段々問題ガ深刻ニ相成ツテ來ルト思フノデアリマス、サレバト云ツテ、矢張り今日ニ於テ税ト貯蓄トノ差ハ、私ハ其處ニアルト思フノデアリマス、一方ハ國ニ於テ其ノ金ヲ使フノデアリマス、一方ハ自分ノ金トシテ其處ニ置イテオク金デアリマスカラ、考ヘ方ハ貯蓄ノ方ガ不公平ガアツテモ、樂ダト思フノデアリマス、ガ併シナガラ、昨今ノヤウナ狀況ニ於キマシテ段々國民貯蓄ノ問題モ、一方生活費等ト混同セマシテ、漸次押詰ツテ來ル譯デアリマスカラ、今回臨時資金調整法ノ改正ニ依リマシテ、府縣市町村ニ委員會ヲ置ク、其ノ委員會ニ於テ左様ナ、今アナタノ御述ニナツタヤウナ不合理不公平ナコトヲ出來ルダケ一ツ調整シテ行カウ、斯ウ云フ考ヘ方ヲ致シテ居ル次第デアリマス

○竹下豐次君 昨日大臣ガ御述ニナリマシタヤウニ、税ハ出シ放シ、貯蓄ノ方ハ自分ノモノニナルノダト云フコトダカラ、其處ニ考ノ違ヒヲ置イテ宜カラウト云フ、其處ハ御尤モト思ヒマス、唯併シ額ガ餘リ多イノデ、非常ニ苦痛ヲ感ズルト云フコトハ同ジコトナシデアリマス、今申シマシタ例ハ、隣ノ町ハ一ダ、コツチハ三ダト云フノデ、ドウシテコツチハコンナニ違フノダラウト云フノデ、一種ノ妙ナ氣持ヲ町民ガ持ツコトニナリマス、ソレガ貯蓄ノ成績ニモ影響シテ行ク譯デアリマス、事實影響シテ居ルモノデアリマス、其ノ點ヲ十分ニ御考慮下サイマシテ、一層御研究願ヒタイト思ツテ居リマス、尙重ネテ諄クナリマスレドモ、貯蓄ノ問題デスガ、割當ガ或所デハ、是モ何カノ間違ヒデコンナコトニナツテ居ルノダラウトハ思ツテ居リマスガ、生産總額ヨリモ貯蓄ノ割當ノ方ガ多クナツテ行クト云フ所ガアル、サウ云フ所デハドウモ貯蓄ヲ皆ニ割當テテ見タ處デ、ナカノ豫定通り集ル管ガナイ、ソレデ特殊ナ人ニ對シテ、又無理ガ行ク、其ノ實例トシテハ實ハ斯ウ云フコトガアリマス、ドウシテモ此ノ町デハ割當デケノ成績ヲ擧ゲルコトハ出來ナイ、ソレデハ町ノ恥ニナルト云フヤウナコトカラ、何トカシナケレバナラヌ、就テハ山林ヲ伐採シテ賣ツテ、ソレヲ一ツ貯蓄ニシテ賣ヒタイ、斯ウ云フ譯デアリマス、山林ノ伐採ハ、木材ノ需要ガ緊急デアアルガ爲ニ伐採命令ヲ出サレルト云フコトハ、今日行ハレテ居ルノデアリマスガ、サウ云フ意味ノ伐採デシタナラバ意味ガアリマスカレドモ、貯蓄ノ爲ニ態々山マデ伐ツテ、ソレヲ賣ツテ貯蓄シロト云フヤウナコトヲ、町長ガ自分ガ先ニ立ツテ勸メテ居ル、サウ云フヤウナ事例モアリマス、是ハドウ考ヘマシテモ無理ナ話デ、合理的デモナイヤウニ思フノデアリマス、是ハ私知ツテ居ルノハ、タツタ一ツノ例デアリマスカラ、一般ノ二彼此申上ゲルノデアリマセヌガ、併シ、サウ云フ事例ガ開カレルト云フコト

ハ、又隣リノ町村ノ方ニモソレガ及ンデ行ク、眞似ヲシタガルト云フヤウナコトニナリ易イ、傳播性ヲ持ツテ居ルトハ、貯蓄ノ方ノ係リノ役場ノ吏員トカ縣廳ノ役人トカ云フ人ハ、矢張り成ルベク澤山ノ貯蓄ヲサセルト云フコトト云フコトデ、先例ガアリマスルト、アスコデモヤツテ居ルデハナイカ、隣ノ村デヤツテ居ルナラ、コチラデモヤラウト云フヤウナ傾向ヲ生ジ易イト思フノデアリマス、傳播性ヲ有シマスルノデ、今日アル例ハ、澤山アラウト思ヒマセヌケレドモ、特ニ御留意願ヒタイト申ス次第デアリマス

○國務大臣(石渡莊太郎君) 所得以上ニ貯蓄ノ割當額ガ行クト云フコトハ、是ハ相當色々ナ問題ヲ撒クトデアラウト存ジマス、斯ウ云フヤウナコトノナイヤウニ、能ク一ツ注意ヲ致シテ行キタイト存ジマス

○竹下豐次君 私人質問ハ是デ終リマス

○委員長(伯島林傳太郎君) 内田サンモ何カアリマシタナ

○内田重成君 ハイ

○委員長(伯島林傳太郎君) 宜シウゴザイマス

○内田重成君 丁度大臣モ御出席デゴザイマスノデ、私ハ極ク荒ソボイ議論デスガ、戰時財政ヲ賄フ爲ニ、大藏大臣ガ格別ニ御盡力ニ相成ツテ居リマスルコトハ、萬々諒承致シテ居ルノデアリマス、昨日及其前日ノ御説明ニ依リマシテ、綜合所得稅ニ付テ今度ノ改正案デ手ヲ御附ケニ相成ラナカッタトノ御話モ承ツタノデアリマスガ、是ハ極メテ適當ナル措置デアツタト考ヘル

ノデアリマス、今日ノ實情ニ於キマシテ、戰費調達等ノ爲ニ成ルベク稅收入ヲ多量ニ繰リ出スト云フコトハ、極メテ重要ナコトデアリマスルガ、之ヲ負擔スル側ニ於キマシテハ、現在ニ於テ既ニ相當多額ヲ負擔シテ居リマスノデ、是以上ニ負擔セシムルト云フコトハ、只今ノ處デ當ヲ得ナイモノデアルト、感ズルノデアリマス、今度ノ改正案ニ大藏當局ハ此ノ點ニ付テ深ク思フ致サレテ、綜合所得稅ノ方面ニハ手ヲ御附ケニナラナカッタト云フ、極メテ賢明ナル御措置ニ對シテ、滿腔ノ敬意ヲ表スルノデアリマス、或ハ戰局ノ進展等ニ依リマシテ、將來是等ニ付キマシテ、又綜合所得ノ方マデ漁ラネバナラヌト云フヤウナ特別ナル事情ガ出來マシタ時ニハ、格別デアリマスガ、是ハドウカ深キ思フ致サレマシテ、此ノ部分ニ對スル稅率ノ増加ナドニ付キマシテハ、將來一層ニ御考慮下サルコトト考ヘマスルガ、此ノ點ニ付キマシテ今一應將來ノ御見透シ並ニ御考慮ノ程ヲ承ツテ置キタイト考ヘルノデアリマス、序ニ申上ゲマス、矢張り同ジヤウナ問題デアリマシテ、此ノ度ノ稅制案ニ於キマシテ窮カニ悞レテ居リマシタ相續稅ノ増率ノ問題ガ、是又除外サレテ居リマスルコトヲ、頗ル會心ニ存ズルノデアリ、窮カニ思ヒマスルノズル、此ノ相續稅ト云フモノハ極メテ惡法デアルト私ハ考ヘテ居ル、日本ノ家族制度ノ上カラ申シマシテモ、日本ニハ此ノ相續稅ト云フコトニ付テハ特殊ノ考ヲ持タナケレバナラヌ、西洋流ノ個人主義ノ考ハ、國體ノ上カラ見マシテモ全然排斥シナケレバナラヌノデ、元來此ノ相續稅ト云フモノハ、個人主義カラ發達シタモノデアラウト思フノデア

リマス、是ハ個人主義ノ上カラ見マスレバ、相續ニ依ツテ儲ケタト云フコトノ感ジモ起ルノデアリマスカレドモ、日本ノ如キ家族主義ノ國ニアリマシテハ、戶主ハ家族ヲ扶育シ及ビ其ノ家庭ヲ維持シ、日本建國ノ基礎ヲ成スモノデアルト云フコトヲ維持シテ行カナケレバナラヌ責任ヲ持ツモノデアリ、ソレデ從來カラ此ノ相續稅ニ付キマシテハ、常ニ相當議論モアリマスルノデ、最初出來マシタ時以後ニ於テ、段々ト緩和サレテ來テ居ル傾向ヲ持ツテ居ルノデアリマス、併シ其ノ稅率ノ上ニ於キマシテハ相當苛酷ナ稅デアリ、是ガ一朝ニシテ戶主ガ死亡シタ後、其ノ遺族ノ者ハ、此ノ稅率ニ依リ徵稅ニ依ツテ、顛落ノ生活ニ立至ラナケレバナラヌ、殊ニ働キヲ持ツタ戶主ガ死亡シテ、遺族ハ何等ノ働キヲ持ツテ居ラヌモノデアリ場合ニ、此ノ遺族ノ生活ハ、非常ニ慘メナモノニナル、自ラ家庭主義ノ徹底ガ出來ナイコトニ相成ル譯デアリマス、願ハクハ是迄相當稅率ハ引上ゲテハ參リマシタモノ、將來日本ノ國體カラ考ヘテ、稅率ヲ引下ゲルノミナラズ、一步進ンデ相續稅ナルモノハ將來廢止スベキ運命ニアルノデヤナカラウト考ヘル、是ハ稅制整理一般ノ問題トセズトモ、僅カニ一億三千萬圓ノ收入ニ過ギナイノデアリマスルカラ、日本ノ租稅ノ全體カラ考ヘルナラバ、サウ大シタコトデハナイ、其ノ一億三千萬圓ノ收入ハ、他ノ稅ニ轉嫁シテ之ヲ徵收スルコトモ可能デアルト考ヘル、デアルカラ、斯カル家庭主義ニ大脅威ヲ與ヘル惡法ハ、將來整理サルベキモノデアルト私ハ存ズルノデアリマス、今日ノ戰局上カラ見テ、多々益租稅收入ノ多カラムコトヲ欲スル時

ニ、斯カルコトヲ申上ゲルノハ稍、突飛
デアリマスガ、併シナガラハ日本ノ建
前ニ背ク、今更ニ今度ノ戦争ノ原由其ノ
他ニ付テ調ベテ見マスル、全ク個人
主義家庭主義ノ争ヒデアルト云ツテモ
宜イ位ノモノデアアル、日本ノ家庭ガ如
何ニ重要ナモノデアアルカト云フコト
ハ、今更私申ス迄モナイコトデアリマ
スガ、此ノ點ニ付キマシテ此ノ度ノ改
正案ニ手ヲ著ケテ居ラレマセヌノヲ非
常ニ有難ク感ズルノデアリマス、將來
ニ於キマシテハ如何ニ戦局ガ苛烈ニ
相成リ、稅收入ヲ漁ルコトニ於テ急ナ
ル場合ト雖モ、今日以上ニ之ヲ増加ス
ルコト云フコトハ、其ノ面ニ付テ賢明ナ
ル常ニ御措置下サル現大藏大臣ハ十
分御考慮下サルコト考ヘマス、其ノ
點ニ對シテ御考ノ程一應承ツテ置タ
ゴトハ強テ無益デナイト考ヘマス、ソ
レダケヲ御尋ネ致シマス

○國務大臣(石渡嘉次郎君) 綜合所得

稅ハ、昭和十五年稅制改正ニ至ル迄ハ
我が國ノ所得稅ノ根本デアリマシテ、
所得稅ト云ヘバ此ノ綜合所得稅デアリ
マシタコトハ御承知ノ通りデアルト思
フノデアリマス、所得稅ガ綜合累進ノ
建前ヲ致シマシテ、近來何レノ國
家ニ於テモ、此ノ綜合所得稅ト云フモ
ノヲ重ク見テ居リマスコトハ申ス迄モ
ゴザイマセヌ、日本ニ於キマシテモ明
治二十年來此ノ綜合累進ト云フ建前デ
此ノ稅ガ始メラレタノデアリマス、昭
和十五年ノ改正ニ於キマシテ、此ノ綜
合所得稅ノ外ニ分類所得稅ト云フモノ
ガ行ハレテ、サウシテ分類所得稅ト綜合
所得稅トガ二本建ニナツテ今日迄來テ
居ルノデアリマス、是ハ勿論戰時中ニ
於ケル稅制改正ノ大キナ問題デアツタ
ノデアリマスガ、戰時財政ニ對應スル

ヤウナ收入ノ増加ヲ圖ルニ於テハ、此
ノ分類所得稅ト云フモノガドウモ必要
ダト云フ考ヘ方カラ致シマシテ、其ノ
當時此ノ分類所得稅ト云フモノガ創設
サレタト思フノデアリマス、果シテ現
在ニ於テハ、所得稅ノ大キナ部分ト云
フモノハ分類所得稅ニ相成ツテ居ル譯
デアリマス、綜合所得稅ハ今申シタヤ
ウナ沿革カラ考ヘマシテモ、昭和十二
年即チ戦争ノ始マリマシタ當時カラ、
頻リニ増徴ヲ致サレ來ツテ居ルノデア
リマス、一方分類所得稅ハ昭和十五年
ニ創設致サレマシテ、比較の日ガ淺イ
モノデアリマスカラ、綜合所得稅ニ比
較致シマスレバ、増稅ヲ致シマシタヤ
ウナ度數深サト云フモノガ大分違ツテ
來テ居ルノデアリマス、累進所得稅、
累進稅率ヲ以テスル所ノ綜合所得稅
ハ、比較の今日稅全體ニ於ケル地位ト
シテハ輕クナツテ來テ居リマスケレド
モ、併シナガラ此ノ綜合累進稅ト云
フモノハ、其ノ稅ノ理窟カラ言ヒマシ
テモ、亦其ノ徵收ノ仕方カラ言ヒマシ
テモ、合理的ナ又最モ世ノ中ノ人ガ納
得致ス所ノ稅デアルノデアリマス、
即チ應能負擔、租稅ノ納メル能力ニ
應ジテ納メルト云フ意味ニ於キマシ
テ、理論カラ言ヒマシテモ、實際カ
ラ言ヒマシテモ良イ稅金デアリマスコト
ハ申ス迄モゴザイマセヌ、今回ハ此ノ
綜合所得稅ニ付テハ増稅ヲ行ハナカツタ
ノデアリマスガ、何故綜合所得稅ニ對
シテ増稅ヲ行ハナカツタカト云ヘバ、
綜合所得稅ハ既ニ累次ノ増稅ニ依ツテ
相當高率ニ相成ツテ居ルモノデアリマ
スカラ、今回ノ増稅ハ此ノ累進所得稅
ニハ及バナカツタノデアリマス、併シ
ナガラ此ノ綜合累進稅ガ最早はダケ

デ、更ニ増稅ノ餘地ノナイモノカト云ヘ
バ、是ハ私ハ左様ニハ考ヘテ居リマセ
ヌノデ、尙増稅ノ餘地ハアルトハ存ジ
マスケレドモ、各般ノ關係カラ致シマ
シテ、今回ハ増稅ヲ致サナイデ御提案
ヲ致シタヤウナ次第デアリマス、今後
ニ於テ増稅ヲシナイカト云フ御尋ニ付
キマシテハ、ソレハ今後ノ經濟情勢、
豫算ノ狀況、各般ノ狀況ニ依ツテ判斷
致スヨリ外ニ仕方ガナク存ジテ居ル
ノデアリマス、其ノ次ニ相續稅ノ問題
デアリマスガ、相續稅ニ付キマシテハ
今内田委員ノ仰シヤツタヤウナ議論
ガ、抑、相續稅ノ創設致サレタ當時カラ
議論ノアル點デアリマシテ、又是ハ日
露戰爭ノ當時ニ起サレタモノデアリマ
スガ、日露戰爭後ニ於テモ屢、論議ノ致
サレタ問題デアリマス、元ノ若槻總理
大臣ガ大藏省ノ主稅局長ノ際立案致サ
レタ稅デアリマスガ、其ノ後ノ若槻藏
相ノ當時、其ノ稅率ヲ低減サレタコト
ガアルコトモ御承知デアルト思ヒマス
ガ、併シナガラ此ノ相續稅ガ仰セハ通
リ惡稅ト云ツテ一概ニ之ヲ葬ツテシマ
フカドウカト云フ所ニハ大ニ疑問ガ
アルト思フノデアリマス、日本ニハ外
ニ財產稅ト云フモノガアリマセヌ、此
ノ財產稅ト云フモノモ矢張り租稅ノ負擔
力ヲ持ツテ居ルモノデアリマシテ、所
得ト財產ト此ノ二ツガ結局稅ヲ賄フベ
キモノデアルノデアリマス、年々生ズ
ル所ノ所得ニ依ツテ、所得稅ト云フモ
ノガ課稅セラレテ居ルノデアリマス
ガ、所得以外ニ矢張り財產自體ト云フ
モノヲ捕捉致シマセヌケレバ、所得ヲ
免レタヤウナ者ガ大キナ財產ヲ持ツテ
居テ、結局之ガ課稅ヲ受ケナク云フ
ヤウナ、國ニ於テ最モ恐ルベキ現象
ガ、最モ恐ルベキ現象ト云ツテハ語弊

ガアルカモ知レマセヌガ、稅ノ方カラ
考ヘマシテ、ドウモ餘リ感心シナイ所
ノ現象ガ現レテ來ルノデアリマス、左
様デアリマスカラ、何レノ國ニ於キマ
シテモ、所得ハ所得トシテ之ヲ押ヘ、
財產ハ財產トシテ押ヘル所ノ稅ガ必要
デアルト思フノデアリマス、或所ニ於
テハ財產稅ト云フモノヲ年々課稅ヲ致
シテ居リマス、年々課稅ヲ致シテ居ル
アリマス、併シナガラ此ノ財產稅ヲ年
年課稅シナイ國ニ於テハ、相續稅ノ稅
率ト云フモノハ相當高イト云フコトハ
是ハ免レナイト思フノデアリマス、日
本ニ於テモ毎年々々課稅致シマス所ノ
財產稅ヲ實行シロト云フ議論モアルノ
デアリマスガ、斯カル財產稅ヲ實行致
シマスルコトハ、實際上モ非常ニ困難
デアリマスシ、所得ノ補完稅デアルナ
ラバ、分類所得稅ノヤウナ所得自體ヲ
押ヘテ課稅シタ方ガ簡單明瞭デアルト
云フコトデ、昭和十五年ノ稅制改正ノ
時ニ分類所得稅ト云フモノガ起サレタ
ノデアリマス、從ツテ日本ニ於キマス
財產ニ對スル課稅ト致シマシテハ、相
續稅ダケデアリマス、一面ニ於テハ左
様ナ稅ノ方ノ理窟カラシマシテモ、財
產ニ對スル所ノ課稅トシテ相續稅ト云
フモノハ、私ハ今日ノ日本ノ財政全般
ニ於テ必要ナ稅金デアツテ、之ヲ廢止
スル譯ニ行カナイ、一億何千萬圓ノ收
入デアリマススケレドモ、之ヲ廢止スル
譯ニハ行カナイト思フノデアリマス、又
一方此ノ社會經濟ノ秩序方面カラ考ヘ
マシテモ、此ノ相當多額ナ財產ニ對シ
テ、其ノ移轉スル時ニ何等ノ課稅モヤ
ラヌト云フコトハ、今日ノ一般民心ノ
上カラ言ツテモ、左様ナ稅金ヲ廢止ス
ルト云フコトハ、是ハナカクノ納得ノ

出來兼ネル問題デアルト思フノデアリ
マス、大分相續稅ガ高率ニ相成ツテ居
リマシテ、今後ノ相續稅ノ増徴ニ付テ
ハ慎重ニ考慮致サナケレバイカヌ點ハ
幾多アルト思ヒマス、幾多アルト思ヒ
マスガ、併シナガラ相續稅ヲ廢止致ス
考ハ持ツテ居リマセヌ、又相續稅ヲサ
程惡稅デアルトモ考ヘテ居ラヌノデア
リマス、其ノ調査ノ仕方、又一時ニ多
クノ稅ヲ納メル所ノ其ノ徵稅ノ方法等
ニ付テハ考ヘルベキ點ガ幾多アラウカ
ト思フノデアリマスガ、相續稅ヲ廢止
致スヤウナ考、又ハ今日此ノ戰時下ニ
於テ輕減スベキヤウナ考ヘ方ハ致シテ
居ラヌノデアリマス

○内田重成君 大藏大臣トシテハ御無

理ノナイ御説明デアルト考ヘル、唯相
續稅ニ付キマシテ、私全廢論ノ極端論
ヲ申上ゲル者デアリマスルガ、是ハ姑
ク措クト致シマシテモ、少クモ制定
當時トハ事情ヲ異ニシテ居リマス、從
ツテ其ノ免稅點等ニ付キマシテハ考慮
サルベキ餘地ガアルト考ヘルノデアリ
マス、是モ今、必ズシモ御答辨ヲ願フ
譯デアリマス、相續稅法、其ノ中
ニ於キマシテ色々ノ率ノ上デアルト
カ、免稅點デアルトカ云フヤウナ點ニ
付キマシテモ、研究シ考慮スベキ餘地
ガ相當アルヤウニ考ヘルノデアリマ
ス、是ハ自分ノ意見トシテ申上ゲテ置
キマシテ、之ニ對シテ大臣ノ御答辨ヲ
要求スル譯デアリマス、只今御説明ヲ承
ツタノデアリマスルガ、是亦更ニ申上ゲ
テモ結局一ツノ議論ニ相成リマス、私
ハ只今大臣ノ御説明ヲ承ツテ、更ニ私
自身ニ於キマシテモ研究シテ、後日又
申上ゲル機會ヲ得タイト考ヘマス、是
デ終リマス

○橋本辰二郎君 私、只今ノ問題ニ關
聯シテ

○委員長(伯耆林傳太郎君) 關聯アル
ヤウニ、ドウゾ願ヒマス、橋本君

○橋本辰二郎君 相続税ニ付キマシテ
ハ、随分負擔ニ苦シムデ居ル者ガアル
ノハ實際デアリマス、殊ニ相続財産ノ
評價ニ付キマシテ非常ニドウモ異議ガ
生ズルノデアリマスルガ、殊ニ近來大
都市ノ不動産ト云フモノハ非常ニ暴落
ヲ致シテ居リマス、其ノ暴落ノ程度ト
云フモノハ、殆ド想像外デアリマス、
御承知ノ通り、各都市ノ商業區域ヲ御通
リニナルト、殆ド閑店ヲシテ居ル所ハ
アリマセヌ、モウ大抵皆店ヲ閉ヂテ居
リマス、從ヒマシテソレ等ノ店舗ノ利
用價值ト云フモノハ非常ニ暴落致シマ
シタ結果、此ノ收益ヨリ還元若シクハ
逆算致シマス、不動産ノ價值ト云フ
モノハ殆ド無價值ニ等シイト云フ有様
デアリマス、斯ウ云フ際ニ、相續事故
ガ起リマシタ場合ニ於キマシテ、過去
ニ於ケル貸賃價格其ノ他ノモノヲ標準
ニシテ課稅ヲセラル、ト云フコトハ、
此處ニ非常ナル無理ガアラウカト思ヒ
マスガ、是等ノ場合ニ於キマシテハ、
其ノ實際ノ事情ヲ能ク調査セラレマシ
テ、餘リ無理ノナイヤウナ、實情ニ即
シタ見積ヲ以テ課稅ノ對象トスルト云
フヤウナ御意見ガアリマセウカ、其ノ
點ヲ承リタイト思ヒマス

○國務大臣(石渡莊太郎君) 橋本委員
ノ御尋ハ、政府ニ其ノ意思ガアルカド
ウカト云フ御尋デアリマスガ、御承知
ノ通り法律ハ相續ノ開始シタル當時ノ
時價ニ依リテ算定シタル當時ノ時價ニ
ツテ居リマスモノハ、政府ノ意思如何
ニ拘ラズ、法律ガ其ノ通り命ジテ居ル
ノデアリマスカラ、從ヒマシテ、政府

トシマシテモ、其ノ相續ノ開始シタル
當時ノ時價ニ依ツテ之ヲ算定スルヨリ
外ニ仕方ガザイマセヌ、其ノ當時ノ
時價ニ依ツテ算定シナイデ、若シ其ノ
前ガ安カラウガ高カラウガ、外ノ時期
ニ於ケル所ノ時價ニ依ツテ算定シタモ
ノハ、ソレハ間違ヒデアリマス

○橋本辰二郎君 法規ニ於テハ、其ノ
當時ノ時價ヲ以テ對象トスルト云フコ
トニナツテ居リマセウガ、大藏省ト云
ヒマスカ、稅務署ト云ヒマスルカ、各
市町村ノ土地ノ價格ノ如キモノハ、豫
メ評價ヲ一定セラレテ居ルヤウニ承ツ
テ居リマス、ソレニ依ツテ直チニ算定ヲ
セラル、ト云フコトハ聞イテ居リマス
ルガ、サウ云フコトハナクシテ、實際
其ノ相續財產ニ對スル算定ハ、事故ノ
起ツタ當時ノ時價ヲ以テヤルト云フコ
トヲ、是迄實際實行セラレテ居ルノデ
アリマセウカ

○國務大臣(石渡莊太郎君) ソレハ其
ノ不動産ノ時價ガ幾テアルカト云フ
コトヲ其ノ都度決メルト云フコトガ、
相續開始當時ノ時價ト云フ算定ニ合ハ
ヌコトヲ恐レテ、稅務署ニ於テハ、過
去數年間ノ調査ヲ致シタモノヲ以テ其
ノ算定ノ基礎ニ致シテ居ルコトハアル
ト存ジマス、アルト存ジマスガ、若シ
其ノ算定ヲ致シタモノガ、相續開始致
シマシタ當時ノ時價ニ比較致シマシテ
高イヤウナモノ、又低イヤウナモノ
ハ、ソレハ法規ノ要求スル所デアリマ
セヌカラ、稅務署ニ於テ左様ノ算定ヲ
致シマシテモ、納稅者ニ於テ、是ガ時
價デアルト云フコトヲ御主張デアルナ
ラバ、稅務署ハ勿論此ノ法律ニ依ツテ
實際施行スルノデアリマスカラ、其ノ
御主張ニ從フベキコト勿論デアルト思
ヒマス

○橋本辰二郎君 大臣ノ答辯ハ當然ナ
御話デアリマスルガ、實際ニ於テナカ
ナカ大臣ノ御話ノヤウニ行ハレテ居
イノデアリマス、私ハ實ハ友人ノ相續
財產ニ度々關聯致シマシタガ、他ノ點
ニ於キマシテハサ程無理ハアリマセヌ
ガ、不動産ノ評價ニ付キマシテハ隨分
無理ガアルノデアリマス、是ハ勸業銀
行又ハ不動産ノ取扱者ノ評價ノ何ヲ添
ヘテヤリマシテモ、稅務署ハ獨自ノ見
地ニ立ツテ評價スルト云フノデ、隨分
無理ガ是迄行ハレテ居ルノデアリマ
ス、併シ斯ウ云フコトハ非常ニ納稅觀
念ヲ惡化セシムル虞ガアリマスノデ、
此ノ點ニ付キマシテハ能ク一ツ實情ヲ
調査セラレマシテ、惡イ點ハ納稅思想
ノ昂揚ノ爲ニモ是セラレムコトヲ御
願ヒ致シタイト思ヒマス、ソレカラ數
年前デアリマシタガ、相續財產ノ物納
ヲ御許シナリマシタガ、ソレノ實際
物納ノ行ハレマシタ事例ガアリマス
ナラバ、之ヲ御示シテ願ヒタイ

○政府委員(田中豐喜) 相續税ニ付キ
マシテ、物納ノ事例ハ未ダアリマセヌ
デスガ、御承知ノヤウニ物納ノ問題ハ
相續稅ヲ決定致シマシテ、ソレカラ不
動產等ガ非常ニ下ツテ來ルヤウナ趨勢
ニアリマス場合ニ於キマシテハ、非常
ニ效果ヲ發揮シマシテ利用セラレルヤ
ウナ場合ガ多カラウト存ジマスガ、最
近ノ情勢ニ於キマシテハ物納ノ制度ヲ
設ケマシテモ、寧ろ不動産、極ク最近
空襲トカ、或ハ企業整備等ニ依リマシ
テノ都市ノ不動産等ハ別デアリマス
ガ、最近ニ於テ大體上昇傾向ニアリマ
シタノデ、マダ物納制度ハ利用セラレ
テ居リマセヌ

○橋本辰二郎君 此ノ物納ハ法規ガア
ツテモ、實際ニ適用スルモノガナイ
ト云フコトハ、初メカラ私ハ法規ノ内
容制定ガ宜クナカツタと思フ、不動産
ガ相續財產ノ過半ヲ占メル場合ニ於テ
ノミ物納ヲ許スト云フヤウナ制度ニナ
ツテ居ツタと思ヒマス、ダカラ不動産
ガ相續財產ノ過半ヲ占メルト云フヤウ
ナモノハ、郡部ニ於ケル大農家デナケ
レバ、都市ニ於キマシテハ誠ニ稀デア
ラウト思フノデアリマス、處ガ、郡村
ニ於キマスル不動産ニ付キマシテハ、
本金ナド其ノ他ニ於テ評價ガ一定致シ
テ居リマシテ、稅務署モ矢張りソレニ
準據スルト云フコトデアリマシテ、左
程無理ハナイト云フコトデアリマス、
無理ガナケレバ茲ニ物納モ何モスル必
要ハナイノデアリマス、唯都會地ニ於
キマス不動産ノ評價ニ付キマシテ、先
程私ノ申上ゲタヤウニ、ドウモ非常ナ
ル無理ガアルノデアリマス、ソレデ此
ノ無理ヲ救済スルト云ヒマスカ、無理
ナル押付防段手段トシテ物納ヲ許シ
タ方ガ好クハナイカト云フヤウナ言ガ
擲頭致シマシテ、遂ニ物納ト云フコト
ニナツタノデアリマスケレドモ、實際
是ハ殆ド空文ニ等シヤウナモノデ、
行ハレナイヤウナモノデアリマス、都
市ニ於キマスル相續財產ト云フモノ
ハ、不動産ガ其ノ主要部分ヲ占メテ居
ト云フコトハ誠ニ稀デアリマシテ、不
動產ト云フモノハ其ノ相續財產ノ半額
以下ノモノガ多イノデアリマス、從ツ
テ此ノ法律ハ適用ヲ受ケル機會ガナイ
ノデアリマス、實ハ私等ノ豫テ物納ト
云フコトヲ主張致シマスル所以ノモノ
ハ、必ズ物ヲ以テ納メルト云フノデナ
クシテ、即チ稅務署ノ苛酷ナル評價ヲ
避ケテ、サウ云フ無理ノコトヲスレバ
物ヲ以テ納メルゾト云フヤウナ風ニ事
ガ行ハル、トスレバ、之ニ依リマシテ

稅務署ノ無理ナル査定ヲ防グコトガ出
來ヤウ、大藏大臣モ御承知デアリマセ
ウガ、ズツト以前ハ、日本ノ關稅組織
ハ、詰リ從價稅ガ多カッタ、此ノ場合
ニ於キマシテ、稅關ノ鑑定價格ガ非常
ニ高イ場合ニ於テハ其ノ鑑定價格ヲ以
テ其ノ物ヲ買上ゲルト云フ制度ガ行ハ
レタ時代モアツタノデアリマス、斯ウ
云フ制度ノ下ニ於キマシテハ、決シテ
無理ナ鑑定又評價モシナイト云フコト
ニナルノデアリマス、實ハ私等モ、只
今申上ゲマシタヤウナ趣旨ノ下ニ、物
納ト云フモノヲ是非トモ制度化シタイ
ト云フヤウナ希望ヲ持ツタノデアリマ
スガ、他日機會ガアリマシタナラバ、
此ノ物納ノ制度ヲ今少シ改正致シマ
シテ、都市ニ於キマスル不動産ノ所有
ノ中ノ、非常ニ不當ナル課稅ヲ防止ス
ルヤウナ手段ヲ講ジ得ルヤウナ途ヲ開
クト云フコトニ付キマシテ、何カ御考
ハアリマスマイカ

○國務大臣(石渡莊太郎君) 政府ガ物
納ヲ設ケマシタコトハ、今橋本委員ノ
仰シヤツタコトハ違フノデアリマス、
即チ稅務署ノ價格ガ不當ニ高イカ
ラ、從ツテソレヲ財產カラ引受ケルト
云フヤウナコトヲ考ヘタ譯デハアリマ
セヌ、政府ノ考ヘマシタコトハ、稅率ガ
段々高クナツテ來テ、サウシテ收益ノ
少イ不動産ガ多イ場合ニ於テ、其ノ不
動產ノ收益ヲ以テシテハナカク、此ノ
相續稅ヲ納メルノ困難デアラウ、斯
ウ云フ見地カラ物納ヲ設ケタ次第デア
リマス、從ツテ半額以上ガ不動産デア
ッタ場合ニハ、此ノ税金ヲ納メルコト
ガナカク、ムツカシイデアラウカラ、
物納デテソレヲ御引受ケ致サウ、斯
様ニ考ヘテ立法ヲ致シタ次第デアリマ
ス、ソレデ將來、左様ナ見地ヨリシ

ト云フコトハ、初メカラ私ハ法規ノ内
容制定ガ宜クナカツタと思フ、不動産
ガ相續財產ノ過半ヲ占メル場合ニ於テ
ノミ物納ヲ許スト云フヤウナ制度ニナ
ツテ居ツタと思ヒマス、ダカラ不動産
ガ相續財產ノ過半ヲ占メルト云フヤウ
ナモノハ、郡部ニ於ケル大農家デナケ
レバ、都市ニ於キマシテハ誠ニ稀デア
ラウト思フノデアリマス、處ガ、郡村
ニ於キマスル不動産ニ付キマシテハ、
本金ナド其ノ他ニ於テ評價ガ一定致シ
テ居リマシテ、稅務署モ矢張りソレニ
準據スルト云フコトデアリマシテ、左
程無理ハナイト云フコトデアリマス、
無理ガナケレバ茲ニ物納モ何モスル必
要ハナイノデアリマス、唯都會地ニ於
キマス不動産ノ評價ニ付キマシテ、先
程私ノ申上ゲタヤウニ、ドウモ非常ナ
ル無理ガアルノデアリマス、ソレデ此
ノ無理ヲ救済スルト云ヒマスカ、無理
ナル押付防段手段トシテ物納ヲ許シ
タ方ガ好クハナイカト云フヤウナ言ガ
擲頭致シマシテ、遂ニ物納ト云フコト
ニナツタノデアリマスケレドモ、實際
是ハ殆ド空文ニ等シヤウナモノデ、
行ハレナイヤウナモノデアリマス、都
市ニ於キマスル相續財產ト云フモノ
ハ、不動産ガ其ノ主要部分ヲ占メテ居
ト云フコトハ誠ニ稀デアリマシテ、不
動產ト云フモノハ其ノ相續財產ノ半額
以下ノモノガ多イノデアリマス、從ツ
テ此ノ法律ハ適用ヲ受ケル機會ガナイ
ノデアリマス、實ハ私等ノ豫テ物納ト
云フコトヲ主張致シマスル所以ノモノ
ハ、必ズ物ヲ以テ納メルト云フノデナ
クシテ、即チ稅務署ノ苛酷ナル評價ヲ
避ケテ、サウ云フ無理ノコトヲスレバ
物ヲ以テ納メルゾト云フヤウナ風ニ事
ガ行ハル、トスレバ、之ニ依リマシテ

稅務署ノ無理ナル査定ヲ防グコトガ出
來ヤウ、大藏大臣モ御承知デアリマセ
ウガ、ズツト以前ハ、日本ノ關稅組織
ハ、詰リ從價稅ガ多カッタ、此ノ場合
ニ於キマシテ、稅關ノ鑑定價格ガ非常
ニ高イ場合ニ於テハ其ノ鑑定價格ヲ以
テ其ノ物ヲ買上ゲルト云フ制度ガ行ハ
レタ時代モアツタノデアリマス、斯ウ
云フ制度ノ下ニ於キマシテハ、決シテ
無理ナ鑑定又評價モシナイト云フコト
ニナルノデアリマス、實ハ私等モ、只
今申上ゲマシタヤウナ趣旨ノ下ニ、物
納ト云フモノヲ是非トモ制度化シタイ
ト云フヤウナ希望ヲ持ツタノデアリマ
スガ、他日機會ガアリマシタナラバ、
此ノ物納ノ制度ヲ今少シ改正致シマ
シテ、都市ニ於キマスル不動産ノ所有
ノ中ノ、非常ニ不當ナル課稅ヲ防止ス
ルヤウナ手段ヲ講ジ得ルヤウナ途ヲ開
クト云フコトニ付キマシテ、何カ御考
ハアリマスマイカ

○國務大臣(石渡莊太郎君) 政府ガ物
納ヲ設ケマシタコトハ、今橋本委員ノ
仰シヤツタコトハ違フノデアリマス、
即チ稅務署ノ價格ガ不當ニ高イカ
ラ、從ツテソレヲ財產カラ引受ケルト
云フヤウナコトヲ考ヘタ譯デハアリマ
セヌ、政府ノ考ヘマシタコトハ、稅率ガ
段々高クナツテ來テ、サウシテ收益ノ
少イ不動産ガ多イ場合ニ於テ、其ノ不
動產ノ收益ヲ以テシテハナカク、此ノ
相續稅ヲ納メルノ困難デアラウ、斯
ウ云フ見地カラ物納ヲ設ケタ次第デア
リマス、從ツテ半額以上ガ不動産デア
ッタ場合ニハ、此ノ税金ヲ納メルコト
ガナカク、ムツカシイデアラウカラ、
物納デテソレヲ御引受ケ致サウ、斯
様ニ考ヘテ立法ヲ致シタ次第デアリマ
ス、ソレデ將來、左様ナ見地ヨリシ

テ、不動産等ノ相續稅ヲ納メル場合ニ於テ、此ノ物納制度ヲ考ヘルト云フコトハ、私ハ尙今後ニ於テモ研究致サルベキ問題デアリト存ズルノデアリマス、併シナガラ今アナタノ仰シヤツタヤウニ、稅務官吏ガ不當ニ不動産ヲ評價スルカラ、從ツテ其ノ不動産ヲ引渡スカラ、ソレヲ引受ケルト云ヤウナ御趣旨ニ於テノ立法ヲ致スコトハ困難デアルト存ジマス

○橋本辰二郎君 只今ノ御答辯ニ依リマス、其ノ財產ヨリ生ズル所ノ收益ヲ以テ相續稅ヲ納入スルコトガ困難ト云フコトヲ慮ツテ、此ノ法律ヲ設ケタト云フヤウナ趣旨デアリマスガ、ソレハマアソレト致シマシテ、誠ニソレハ結構デアリマス、併シナガラ茲ニ財產ノ收入ヲ以テ相續稅ヲ納入ガ出來ルト云フモノハ、今日日本ニ於テドノ位アリマセウカ、是ハ一ツノ例デアリマスケレドモ、日本デ有名ナ大富豪ニ於テ今日相續ノ事件ガ起ツタト致シマスガ、其ノ人ノ負擔スル相續稅ヲ假ニ三千五百萬圓ト決定セラレタ場合ニ於テ、之ヲ七箇年ニ分納致シマシテモ、年ニ五百萬圓ヲ要スルノデアリマス、然ルニ日本デ五百萬圓以上ノ所得ノアル人ハ、アルカナイカハ分リマセウガ、假ニ五百萬圓ノ所得ノアル人ガ、其ノ手ニ殘ル所ノモノハ、稅ヲ引キマスト百萬圓ソコノモノデアラウト思ヒマス、サウ致シマスト、ソコニ四百萬圓カラノ不足ガ生ズル、サウシタ場合ニ於テハ、其ノ人ニ對シテモ、アナタノ仰シヤルヤウナ御趣旨デアラナレバ、何トカノ處置ヲ執ラナケレバナラヌヤウニ考ヘマスガ、如何デスカ

○國務大臣(石渡嘉太郎君) 此ノ不動産ノ收益ノ少イト云フコトハ、收益ヲ

以テ税金ヲ納メラレル、ソレハ大多數ノ低イ方ノ稅率、即チ一箇年ニ六萬六千人カラアリマスガ、其ノ六萬六千人ノ中ノ八九割ト云フモノハ、比較的相續財產ガ少イノデアリマスカラ、從ツテ大多數ハ其ノ收益ヲ以テ納メラレル、若シ其ノ財產ヲ賣ルニシテモ、比較的少イモノトスレバ納メラレルコトト思フノデアリマス、財產ノ極メテ多イ人、何千萬圓何億圓ト云フヤウナ人ニ取リマシテハ、今アナタガ先程カラ仰セニナツテ居ルヤウニ、ナカナカ不動産ガ半額以上サウ云フ人ガ持ツテ居ルト云フコトハ、是ハ減多ニゴザイマセヌ、殆ドアリマス、今日ノ多クノ財產家ノ資產ト云フモノハ有價證券ニ相成ツテ居ルノガ多イノデアリマスカラ、從ツテサル場合ニ於キマシテハ、其ノ財產ヲ賣ツテ、サウシテ處分ヲ致スヨリ外ニ仕方ガナイト思フノデアリマス、ソレデアリマスカラ實際問題ト致シマシテハ、私ガ先程申シタ收益ガ少イト云フコトダケデモアリマスマイ、モウ一ツノ問題ハ、矢張り不動産ノ換價ガ其ノ他ノ財產ニ比較シテシニタイ、斯ウ云フ點モ矢張り含メナケレバイカヌト思フノデアリマスカラ、今アナタノ問ニ對シマシテ、私ノ答辯ノ不足デアツタ所ヲ補足致シテ置キマス

○橋本辰二郎君 何レニ致シマシタ所ガ、先程カラ當委員會ニ於キマシテモ度々皆樣ノ論議ニ上ツテ居リマスマイ、相續財產ニハ隨分無理ナ點ガアルカノヤウニ思ヒマスガ、能ク御研究ニナリマシテ、其ノ無理ハ除却スルヤウナ風ニ、或機會ヲ以テ之ヲ改正スル御意思ハアリマセヌカ

○國務大臣(石渡嘉太郎君) 無理ハ致サナイ方針デアルト云フコトヲ、私ハ

繰リ返シ申シテ居ルノデアリマス、法規上ノ無理ガアリマス點ニ付キマシテ、法規ヲ改正シタラバドウダ、斯ウ云フ御話デアリマスナラバ、稅務ノ實行上ノ無理ト云フコトハ、出來ルダケ私ハ避ケテ居ルト云フコトハ繰リ返シテ言ツテ居ルノデアリマスガ、法規上ノ無理ノアリマス點ガアリマスナラバ、勿論ソレハ改正ヲ致シマスノニ躊躇致ス次第ハゴザイマセヌ

○橋本辰二郎君 能ク此ノ點ヲ御研究ニナリマシテ、ドウカ善處セラレムコトヲ御願ヒ致シマス

○子爵梅園篤彦君 極ク簡單デアリマスガ、大臣ニ御尋ネ致シタイノデアリマス、今度ノ増稅案ニ於キマシテハ、物品稅ニ御觸レニナツテ居ラヌヤウデアリマスガ、最近ノ此ノ社會情勢ノ急激ナル變化ニ即應致ス爲ニハ、寧ロ此ノ際物品稅ノ品目ニ再檢討ヲ加ヘル必要ガアリマスマイカ、此ノ點ニ付テハ御所見ヲ伺ヒタイト思ヒマス、尙稅收入ヲ圖ルト云フ點カラ申シマシタナラバ、此ノ際ニ寧ロ物品稅ノ範圍ヲ擴張シタ方ガ宜イノデアリマスカラ、此ノ際物品稅ニ御觸レニナラナカツタト云フ事情ト申シマスガ、理由ト申シマスガ、何フコトガ出來マシタナラバ幸ヒト思ヒマス

○國務大臣(石渡嘉太郎君) 物品稅ハ其ノ收入カラ考ヘマシテ、昨年度ハ十億圓ノ收入豫想ヲシテ居タノデアリマス、昭和二十年度ニ於キマシテハ六億四千萬圓、三億五千萬圓程ノ減收ヲ見込シテ居ルノデアリマス、是ハ隨分大キナ減收デアアルノデアリマスガ、恐ラクハ昭和十九年度ノ實績モ十億圓ノ豫算ニ對シマシテ相當ナ赤字ヲ見ルノ

デハアルマイカト思ツテ居ルノデアリマス、戰局ノ今日ノ段階ニ於キマシテ、此ノ物品稅ニハ私ハ大シタ期待ヲ持チ得ナイト實ハ思ツテ居ルノデアリマス、食料品等ニ課稅ヲ致スト云フコトデアリマスナラバ、更ニ稅收入ハ殖エルト思フノデアリマスガ、食料品ニ課稅ヲ致スト云フコトハ、又別途ノ見地ヨリ致シマシテ餘程ハ考ヘネバйкаヌ點ガアルト思ヒマス、物品稅ハ主トシテハ食糧品ト云フモノニ課稅致シ居リマスガ、御承知ノヤウニ食糧品ガ漸次製造禁止、販賣禁止、更ニモウサウ云フヤウナ食糧品ノ製造ハ消滅セラレマシテ、戰爭ニ必要ナル物資ノ製造ニ移ツテ居ルノデアリマスカラ、從ツテ此ノ食糧品又ハ比較的此ノ奢侈的消費ニ屬スル食糧品ト迄ハ行カナクモ、比較的奢侈的消費ニ屬スルト云フ所ノ物品ト云フモノハ漸次少クナツテ來ル、從ツテ稅率ヲ高メテ課稅ノ範圍ヲ擴張マシテモ、私ハ今日銃後ニ於ケル所ノ生活ノ必需品又ハ軍需品、是ガ今日ノ生産ノ重點ニ相成ツテ居ルノデアリマスカラ、此ノ二ツノモノニ課稅ヲ致サナケレバ、當然ウマク行カナイ、唯此ノ二ツノモノニ課稅致スト云フコトハ、其ノ範圍ニ於テ非常ニ考ヘネバイカヌト、斯様ニ相成ツテ來テ居ルノデアリマスカラ、將來物品稅ノ品目改正等ニ付テ十分考慮ヲ致シテ見タイト存ジマス、御説ノ通り物品稅等ヲ以テ賣上稅ニ代ツテ行クト云フコトモ確カニ一ツノ將來ニ於ケル稅ノ研究題目デアアルコトハ疑ヒゴザイマセヌ、今日ノ狀況ガ左様ナ狀況デアリマスモノデアリマスカラ、今回ハ増稅ノ範圍カラ物品稅ヲ省イタ次第デアリマス、

○澤田牛麿君 大藏大臣ガ御見エデ

アリマスカラ、少シ繰リ返シヤウニナリマスケレドモ、大臣ノ説明デ新興階級、言葉ハ變デスガ、新興所得者ニ對スル課稅ニ法規ヲ改正ニ依ラズ行政手段ノ徹底ニ依ツテ圖ル、ソレデ同ジク三千圓以上デアレバ、新興者デモ舊俸給者デモ其ノ間ノ差別ハ附ケナイハ、法ハ一ツニスルノダ、斯ウ云フ御説明ノヤウニ伺ツテ居リマスガ、私ノ更ニ御伺ヒシタイ所ハ、成程ソレハ表面ノ御議論トシテ少シモ異議ノナイ所デアリマスガ、元ノ例ハ俸給者ト云フヤウナ者ハ一年ニ何回ト云フ納期ガアツテ、ソレヲ通ジテ取ラレルト云フコトガ通念ニナツテ居ルノデ、受ケル者ハ當然ノコトト思ツテ居リマスガ、新興者ニ取ツテハ生活狀態ト言ヒマスガ、觀念ト言ヒマスガ、稍、趣ヲ異ニシテ居ルヤウニ私ハ考ヘルノデアリマス、ソレデ急ニ金ハ澤山入ルテ來ル、ソレハ一年ヲ通ジテ幾ラ入ルト云フ方デナクシテ、毎日カ毎月トカ、或ハ或時期トカ云フ時ニドンノ入ツテ來ル、其ノ度々ニ取ラレルナラバ苦痛ハ非常ニ少イ、實情ヲ見テ居リマスト、前回ニモ申上ゲタ通り、元ハ一圓札トカ多クテ十圓札位シカ振リ廻シテ居ラナカツタ人ガ、今日ハ百圓札ヲ平氣デ振リ廻シテ居ルト云フ實情デアリマスカラ、サウ云フ場合ニ稅金ノ十圓前後取ラレルト云フコトハ、非常ナ苦痛トハ本人ハ感じナイダラウト思ヒマスガ、一年ヲ通ジテノ收入ヲ幾ラ、何千圓トカ何萬圓トカ見續ツテカケル、本人ハ非常ナ苦痛ヲ感ズルノデハナイカト思ヒマス、ソコデ甚ダ漠然タル間デアリマスケレドモ、サウ云フ場合ニ對シテハ舊來ノ稅目、稅率科目トカ、期日トカ云フ元ノ稅法ノ理論ニ必ズ

シモ拘泥シナイデ、新ナナ構想ノ上カラ租稅ト云フコトヲ教科書通りノ租稅デナシニ、何カ全ク別ノ考カラ出デ、多少法規ニ入レテ方法ヲ講ズルト云フヤウナコトハ出來ナイモノデゴザイマセウカ、ドウモ一年ニ何回取ルト云フ決ツタ所謂「オールソドックス」ノ狀態トハ非常ニ實情ガ違フヤウナ感ジテ、私共ハ直接ハ知リマセヌガ、感ジテ居ルノデアリマスガ、サウ云フモノニ對シテハ特殊ノ立法ヲ、出來ナイコトハ誰ヲ責メテモ仕方ナイノデアリマスカ、少シドウモ實情ガ違フヤウナ氣ガスルノデアリマス

○國務大臣(石渡莊太郎君) 澤田委員

ノ御尋ネ御尤モノ點ガアルノデアリマシテ、左様ナ見地カラ致シマシテ、昨年自由勞務者ニ對シマシテ、本人ガ申告ヲ致シマシテ、分類所得稅ヲ納メルト云フ仕組ニナツテ居ッタノデアリマスカ、左様ナ仕組ヲ廢メマシテ、サウシテ傭主ガ分類所得稅ヲ其ノ勞務者ニ拂フ、勞銀カラ差引キマシテ、傭主ガ其ノ都度税金ヲ納メル、其ノ收入ノ入ツタ都度税金ヲ納メル、斯様ニ致シタノデアリマシテ、其ノ結果ガ昨日モ申上ゲマシタ通り、豫算ニ見積ツタ倍程度ノモノガ國庫ノ收入ニナツテ入ツテ來テ居ルノデアリマス、併シナガラソレデ政府トシテハ満足スベキデアルカト云フ所ノ問題ハ、一ツ問題ガアルノデアリマシテ、今日ノヤウナ勞務ノ需給カラ致シマスト云フト、ドウモ其ノ中ニハ結局勞務者ノ負擔トナラズニ、傭主ノ負擔トナルヤウナ傾向ガアルノデアリマス、左様ナコトハ結局稅法ノ目的デモアリマセズ、又浮動購買力ヲ吸收スル道カラ行キマシテモ、左様ナコトデハイカヌノデアリマシテ、主務

官廳ハ其ノ稅ノ徵收ニ當リマシテハ、傭主等ニ對シテ、更ニ餘計ノ賃金ヲ拂フ譯ノモノデナイ、其ノ税金ハ其ノ勞務者ガ當然負擔スベキモノデアルカラト云フコトデ說明ヲ致シテ居ルノデアリマシテ、出來得ル限り其ノ自由勞務者等ノ受取ル賃金カラ差引カセルヤウニハ指導致シテ居ルノデアリマスカ、今日ノ實情ニ於テハ勞務ノ需給ノ關係上、兎モスレバ勞務者ガ負擔ヲ致サナイ、斯様ナ結果ニ相成ツテ來テ居ルモノモゴザイマス、尙此ノ自由勞務者ニ對スル源泉課稅ノヤリ方ニ付キマシテハ、將來尙研究ヲ改善ヲ致シテ行ク餘地ノアル問題デアルト存ジマス

○澤田委員 先程三浦委員カラモ、

只今御說明ノヤウナ點ガ結局アルノデアリマシカト云フヤウナ御話モゴザイマシタガ、私ハ一面ニ於テ貨幣何ト云フカ、言葉ハ甚ダ不十分デアリマスカ、貨幣ヲ重シジナイ、貨幣ヲ輕蔑スルト云フヤウナ風ガ、往々急激ニ收入ノ増加シタ部分ノ人々ニハアリ得ルノデアリマス、是ガ矢張り一ツノ物價騰貴、インフレノ因ヲ爲スモノデ、此ノ精神的ノ勵ミガ物價及ソデ來ルノデヤナイカト云フヤウナ感ジガアルノデアリマスカ、傭主カラ出サセルト云フコトデハ效ハナイ、本人カラ矢張り取ラナケレバナラス、其ノ取ルニハ納期ガ普通ノ納稅者ナドト同一ニ、從前ノ納期ト同一ニ取ルト云フコトハ、實情ハ困難デアルト思ヒマスカラ、斯ウ云フ場合ニハ特殊ノ法規ヲ設ケテ、或ハ毎日トカ毎十日トカ、每週トカ、毎月トカ、サウ云フ取ル方ノ便宜ヲ圖ツタリ立法スル必要ガアルノデヤナイカ、サツキ御話ニナツタ稅額ノ收入ハ豫想ヨリ殖エテハ居リマスカ、マダアンナモノデ

ハナカラウカト思ヒマス、私ハ詳シイ數字ハ分リマセヌガ、サウ云フ點ニ付テ何カ立法ノ御意思ハナイモノデスカ

○政府委員(田中豐君) 先程、大臣ノ御說明申上ゲマシタ三種ノ事業所得ト云フモノヲ昨年新設致シマシタノデスカ、ソレハ只今澤田委員ノ仰シヤルヤウナ構想ノ下ニ普通ノ課稅ヲシタノデアリ、斯ウ云フ自由勞務者カラハ取レナイト云フヤウナ趣旨カラ、賃金ヲ渡ス際ニ日々差引イテ税金ヲ取ルヤウニ致シテ居リマス

○國務大臣(石渡莊太郎君) 澤田委員

ノ仰シヤルヤウニ、實際一億圓ト云フコトハ矢張り少イと思ツテ居リマス、是等ノ課稅ノ充實ヲ期スルコトハ、私ハ矢張り今日ノ急務デアルト存ジテ居リマス、今年ハ更ニ一層其ノ方面ニ對シマシテ骨折ツテ見タイト存ジテ居ル次第デアリマス、更ニ稅法ノ改正ヲ加ヘマス點ニ付キマシテハ十分研究ヲシテ見タイト存ジマス

○委員長(伯爵林博太郎君) 外ニ御質問ガザイマセヌカ

○黒田英雄君 極ク簡單ニ御尋ネシタイト思ヒマス、扶養家族ノ控除ハ申請ガナクとも、特別ノ事由ガアレバ認めルト云フコトガ勅令案ニ書イテアルヤウデスカ、特別ノ事由ト云フノハドウ云フコトヲ考ヘテ居ルノデスカ

○政府委員(田中豐君) 特別ノ事由ヲ態、斷リマシタノハ、飽ク迄モ申請ニ依ツテ引クコトヲ建前ハ維持シテ行キタイト思ヒマス、特別ノ事情ハ可ナリ廣ク解釋致シタイト存ジマス、先程御說明申上ゲマシタヤウニ、昨年迄ハ納稅者デナカツタ、申告書ガ稅務署カラモ來ナイ、村役場ノ注意モナイカラ其ノ

儘過シテ居リマシテ、所得ノ計算ガ多少稅務署ノ見方ガ強カタカラ、納稅義務者ガ申告シナカツタト云フノハ特別ノ事情トシテ取扱ヒタイト思ヒマス、唯特別ノ事情ト云フヤウニ別ニ制限致シマセヌデ、申請ガナクとも必ズ引クベキモノダト云フコトニ致シタノデハ、何時迄經ツテモ、稅務署ガ決定致シタ後ニナツテモ、又審査請求ノ期間ガ過ぎテモ、何時申出テ來テモ、自分ハ是ダケノ扶養家族ガアルト云フコトヲ申出レバ、必ズ訂正シナクチャナラス、控除ヲ致サナケレバナラスト云フコトニナリマシテ整理モ附カナイコトニナルカラ、サウ云フヤウナコトヲ防止スル爲ニ、又申請ニ依ツテ控除スルト云フ建前ヲ取ル爲ニ特別ノ事情ト云フ文句ヲ挿入致シマシタケレドモ、是ハ只今申上ゲタヤウナ趣旨デ、可ナリ廣ク解釋致シマシテ決定迄、若シハ審査請求ノ期間迄ニ申出ガアレバ、控除致シタイト思ヒマス

○黒田英雄君 モウ一點、極ク簡單ノ

コトデスカ、先程御說明ガアツタ中デ、臨時租稅措置法ノ中デ、第一條ノ第十三ハ法律ノ改正デハナイケレドモ、アレハ關係勅令案トシテ、此處ニ御示シニナツテ居ル方ニハアルケレドモ、法律ハ改正シナイガ、勅令ノ方デサウ云フコトヲヤラウト云フ御意思デスカ

○政府委員(田中豐君) 是ハ法律事項デハアリマセヌ、省令ヲ以テ改正致シタイト考ヘテ居リマス

○委員長(伯爵林博太郎君) 外ニ御質問ガザイマセヌカ、御質問ゴザイマセヌケレバ、此ノ所得稅法外十六法律中改正法律案ニ付キマシテ御質問ハ此ノ程度デ終ツタコトニ致シマシテ、次

同ニ於キマシテハ討論ノ方ニ入リタイト思ツテ居リマスカ、如何デスカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○委員長(伯爵林博太郎君) ソレデハ、本日ハ此ノ程度デ散會致シマシテ、明後日午前十時ニ開會致シマシテ、內務省所管ノ地方稅ノ方ニ入リタイト思ツテ居リマス、本日ハ是デ散會致シマス

午後二時四十八分散會

出席者左ノ如シ

委員長 伯爵林 博太郎君
副委員長 男爵稻田 昌植君
委員 公爵德川 家正君
侯爵細川 護立君
侯爵筑波 藤麿君
子爵松平 乘統君
子爵西尾 忠方君
子爵梅園 篤彦君
子爵安藤 信昭君
子爵本多 忠晃君
下條 康麿君
內田 重成君
長 世吉君
男爵松平外與麿君
男爵島津 忠彦君
三浦 新七君
黑田 英雄君
澤田 牛麿君
竹下 豐次君
井坂 孝君
正力松太郎君
橋本辰二郎君
佐々木長治君

國務大臣 石渡莊太郎君
大藏大臣 灘尾 弘吉君
政府委員 內務省地方局長 田村 秀吉君
大藏參事官 田村 秀吉君

大藏省主税局長 田中 豐君
大藏省國民貯蓄局長 氏家 武君
大藏書記官 平田敬一郎君

昭和二十年二月八日印刷

昭和二十年二月九日發行

貴族院事務局

印刷者 印刷局